

モニタリング結果報告書

施設	神奈川県総合リハビリテーションセンター
指定管理者	社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団
施設所管課	保健福祉局 企画調整部 病院事業課

(平成21年度 下半期)

管理運営状況総括

1 月例報告によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項)
10月	12月4日	12月11日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
11月	1月5日	1月12日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
12月	2月5日	2月12日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
1月	3月5日	3月12日	月報及び現地を確認。特に改善すべき事項はなし
2月	4月5日	4月12日	月報を確認。特に改善すべき事項はなし
3月	4月30日	5月9日	月報及び現地を確認。特に改善すべき事項はなし

2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A: 提案を上回る **B: 提案どおり** C: 提案を下回る

(2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績を記載する。

<提案内容の概要>

1 総合性・高度専門性の発揮

(1) リハセンターの一体的な運営の推進

- ア 利用者窓口の一元化への取組み(神奈川リハ病院、地域支援センター、5福祉施設)
- イ 一貫した医療と福祉サービスの提供(七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム、2病院)

(2) 福祉施設の機能充実

- ア 中期入所枠の拡大と超・準超重症心身障害児者の受け入れへの取組み(七沢療育園)
- イ 日中支援機能の充実と入所定員の見直し(七沢学園)
- ウ 在宅医療重度者の支援に向けた入所支援サービスの充実(七沢学園)
- エ 強度行動障害事業への取組み(七沢学園)
- オ 被虐待児への支援(七沢学園)
- カ 七沢第一更生ホーム・七沢第二更生ホーム・七沢ライトホームの統合と機能見直し(七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム、七沢ライトホーム)
- キ 福祉施設の一体的な運営に向けた取組み(5福祉施設)

(3) 病院の機能充実

- ア 急性期病院等とのネットワークの強化(神奈川リハ病院)
- イ 精神科外来におけるデイ・ケア等への取組み(神奈川リハ病院)
- ウ 就労支援に向けた取組み(神奈川リハ病院)
- エ 理学療法士の卒後教育への取組み(神奈川リハ病院)
- オ 脳卒中地域連携パスの推進(七沢病院)
- カ 検査教育入院機能の見直し(七沢病院)
- キ 高次脳機能障害者の支援への取組み(2病院)
- ク クリニカルパスの推進(2病院)
- ケ 栄養療法の推進(2病院)
- コ 摂食・嚥下障害への取組み(2病院)
- サ 再生医療後のリハビリテーションの研究への取組み(2病院、研究部)

(4) 地域支援センター機能の充実

- ア リハビリテーション専門相談の充実
- イ 専門職員研修の充実
- ウ リハビリテーション情報の提供
- エ 一般県民等に向けたフォーラムの開催
- オ 高次脳機能障害支援普及事業の充実

(5) 研究・開発機能の充実

- ア 臨床的・実践的な研究・開発の推進
- イ 研究体制の見直し

(6) 地域の関係機関との連携強化への取組み

- ア 福祉施設の地域社会との連携
- イ 2病院の地域医療機関との連携

(7) 専門職員の育成

- ア 専門研修等の充実

2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

(1)人権擁護と個人情報の保護

ア 人権擁護と個人情報保護への取組み

(2)利用者サービスの向上対策

ア 支援マニュアルの整備(七沢療育園、七沢学園)

イ 発達障害児に対する支援プログラムの整備(七沢学園)

ウ 在宅障害児の集中療育の支援プログラムの見直し(七沢学園)

エ 日中訓練プログラムの充実(七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム、七沢ライトホーム)

オ 中期入所サービスへの取組み(七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム、七沢ライトホーム)

カ 高次脳機能障害への取組み(七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム)

キ 若年の脳血管障害者や頸髄損傷者への支援(七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム)

ク 視覚障害者への訪問訓練の導入(七沢ライトホーム)

ケ 視覚障害者への新たなスポーツ・レクリエーションへの取組み(七沢ライトホーム)

コ 神奈川リハ病院との連携によるロービジョン(低視覚障害)者の受け入れ(七沢ライトホーム)

サ 障害者歯科診療の実施(神奈川リハ病院)

シ 禁煙外来の設置(神奈川リハ病院)

ス 病院のリハ情報システムと福祉施設の利用者情報システムとの連携

(神奈川リハ病院、七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム)

セ 土曜日リハビリテーション訓練の実施(七沢病院)

ソ 病棟内リハビリテーション訓練の実施(七沢病院)

タ 作業療法訓練(パソコン訓練)の充実(七沢病院)

チ レセプトのオンライン化の推進(2病院)

ツ オーダリングシステムの導入に向けた検討(2病院)

テ 電子カルテシステムの導入に向けた研究(2病院)

(3)自己評価・第三者評価等の推進

ア 第三者評価の推進(5福祉施設、2病院)

イ 自己評価や利用者満足度調査の推進(5福祉施設、2病院)

(4)安全対策の推進

ア 安全対策への取組み

3 効果的・効率的な運営

(1)採算性に配慮した運営

ア 利用計画の目標値の達成(5福祉施設、2病院)

イ 利用率向上への取組み(5福祉施設、2病院)

ウ 医師・看護師の確保への取組み(2病院)

エ 効果的・効率的な職員配置(全所属)

オ 予算・執行事務の適正管理(全所属)

カ 広報活動の推進(全所属)

(2)収益の確保対策と経費の節減対策

ア 収益の確保対策(5福祉施設、2病院)

イ 経費の節減対策(全所属)

<実施状況>

1 総合性・高度専門性の発揮

(1)リハセンターの一体的な運営の推進

ア 利用者窓口の一元化への取組み(神奈川リハ病院、地域支援センター、5福祉施設)

<七沢第一・第二更生ホーム>

第一、第二更生ホームとライトホーム統合に向け、福祉施設一体化検討会、福祉医療サービス連携推進会議で以下の点等について検討した。

・七沢更生ライト相談室を1階事務室内に統合し所内での情報共有に取り組むこと。

・機能訓練課肢体不自由班に、業務分担として地域支援担当を置くこと。

・七沢学園・七沢療育園・七沢更生ライトホーム地域支援担当は定期的に情報交換を実施することとし地域支援センターとの連携を図ること。

イ 一貫した医療と福祉サービスの提供(七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム、2病院)

<七沢第一・第二更生ホーム、神奈川リハ病院、七沢病院>

福祉医療サービス連携推進会議を開催し取り組みを実施

(更生ホームからは、所長・副所長・総務課長・支援課長が委員として、病院からは、医師、事務職員、ケースワーカー等が委員として参画)

・所内ワーキング3グループの発足(脊髄損傷・脳血管障害・高次脳機能障害)

・更生ホームのリーフレットの作成及びリハ2病院と更生ホームの連続した訓練プログラムの検討

(2)福祉施設の機能充実

ア 中期入所枠の拡大と超・準超重症心身障害児者の受け入れへの取組み(七沢療育園)

地域のニーズは「適切な施設の利用を通して在宅生活、利用者・介護者の健康・健全な生活の維持」だと認識し、今後も可能な限り、在宅重心者(超・準超重心者を含む)の受入を行っていく考えている。

平成21年10月に長期利用者2名の死亡退所があり、現在、9床の枠で、在宅重心児者の支援を展開しているが、平成21年度に入って、小児科常勤医師が欠員状態となり、やむなく、超・準超重心者及び医療重度の重心児者の受入を制限している状況が続き、利用率が92%前後と低下した。

平成22年4月1日から小児科医の着任が決まり受入の見通しがついた。

イ 日中支援機能の充実と入所定員の見直し(七沢学園)(21年4月より実施)

- ・各事業でプログラムを作成し、実施結果を基に実績と効果を見る準備をしている。
- ・10月より日中訓練実績を明確化する必要性の高かった生活訓練事業と介護支援事業の日々の実績チェックを開始した。職員数が少ないときの訓練実施に向けた内容の積み上げも併せて開始している。
- ・生活介護事業、生活訓練事業の活動実績を定期的にまとめそれを回覧し、実績状況の認識を深める。
- ・実績状況を確認することで実績向上の工夫をしている。11月より開始。
- ・1月から毎月一回、利用者代表者会議を設定。
- ・3月に園長との懇談会を開催。

ウ 在宅医療重度者の支援に向けた入所支援サービスの充実(七沢学園)

- ・11月26日に医療重度者1名地域移行はかる。次の入所受け入れを調整中。
- ・長期化した利用者の契約更新時期には地域復帰に向けた有期限の通過施設である旨で契約延長期間を定めることへの了解を進める。
- ・居住地の地域支援事業所と積極的な関わりの開始。

エ 強度行動障害事業への取組み(七沢学園)

< 県及び事業実施施設との連携 >

県強度行動障害対策事業連絡調整会議への参加(年6回)

< 地域支援 >

- ・担当圏域4施設の訪問調査を10月に実施した。
- ・関係機関と連携し、強度行動障害者2名について短期利用で受け入れた。
2名のうち1名は3月末までに3回の利用があり、もう1名は県強度行動障害対象者であった。
- ・地域支援課と連携し「研修会」開催。

< 事業対象児者支援 >

- ・対象は県事業対象者2名、予防的支援4名の計6名。心理科、医務課の業務協力を得て必要に応じたプロジェクト会議を随時開催。
- ・学齢児については伊勢原養護学校施設訪問教育と連携。
- ・成人のプログラムについてはマニュアルを作成し日中支援課生活介護班総体で対応。
- ・12/22 4階フロア個室改修終了し強度行動障害、予防的支援等の受け入れ要綱を定めた。
- ・3月に個室化整備により、県立系施設で受け入れ難ケース1名を受け入れて評価。訓練を開始している。

< 研修・研究・啓発 >

- ・研究費にて専門書を購入し各所属に配布。
- ・内部学習会の開催。児童寮の予防的支援3ケースについてサポート研修を実施。
- ・臨床動作研修に3職員を参加させた。

オ 被虐待児への支援(七沢学園)

< 利用者状況 >

- ・30名定員中、20名が措置入所者であるが、この割合は数年来変化ない。措置の要件は虐待が主であり当園には身体的虐待、ネグレクトが多い。
- ・中央、厚木、相模原児童相談所とは、それぞれ年1回業務連絡会を設け、連携をとっている。
(利用者の8~9割がこの3児相管轄)

< 精神的ケア >

- ・期間を2年間とし、長いスパンの中でケアをしている。
心理科と連携し定期的な評価を実施し障害特性の把握に努め、ケースによっては定期的な心理面接を実施している。
- ・今年度、知的水準が上がったケースが3人いた。安定した居場所、学校教育や社会適応訓練による自信付け、職員や教諭との基本的信頼感が知的によい影響を与えている。
- ・H21年度障害福祉サービス報酬加算で「心理担当職員配置加算」を申請し認められた。

< アセスメント >

- ・個別支援計画を半年ごとにたて、その前にアセスメントをおこなっている。
生活場面だけでは把握しきれない家族状況は相談科がフォローしている。学校教育については、訪問形式のため、教諭と連絡が密にとれる環境である。高等部通学者についても毎月学校側と連絡会を開いた。12月からは評価会議の出席も依頼している。心理科との連携は上記の通りである。生活場面だけではなく学校、心理科、相談科と連携し、幅広くケース状況を捉えている。

<家族支援>

- ・被虐待児、家族を支援するために、相談科及び短期入所の窓口で、出来るだけタイムリーな入所を心がけている。短期入所は178件、のべ559日間の入所を受けている。その他、33条の緊急一時保護を16件、のべ114日間受け入れている。

カ 七沢第一更生ホーム・七沢第二更生ホーム・七沢ライトホームの統合と機能見直し

- ・施設統合化検討委員会を設置し統合と機能見直しに向けた取組みを実施
 - 第11回検討会 平成21年10月28日
議題 進捗状況確認 利用者への説明 運営支援計画の統合 居室振り分け等
 - 第12回検討会 平成21年11月18日
議題 臨時職員の雇用調整 必要物品の購入リスト
居室エアコン工事 請求事務の分担 等
 - 第13回検討会 平成21年12月16日
議題 廃棄物品の処分 統合後の会議の設定 パンフレット 案内板の改修
 - 第14回検討会 平成22年1月13日
議題 パンフレット作成 訓練室工事 食堂レイアウト等
 - 第15回検討会 平成22年2月10日
議題 進捗状況確認 等
 - 第16回検討会 平成22年2月24日
議題 進捗状況確認 等
 - 第17回検討会 平成22年3月10日
議題 職員配置 業務分担確認 新パンフ配布先確認等

- ・神奈川リハ病院との検討
事務局(職員課及び企画財務課)との調整
役員調整

キ 福祉施設の一体的な運営に向けた取組み(5福祉施設)

- ・福祉施設一体的な運営に向けた検討会を設置
協議組織として「福祉施設一体化検討会議」、検討組織として「福祉施設一体化検討調整会議」、作業部会として「ワーキンググループ」の3層構造による検討組織による取組みを行うこととした。
 - 平成21年10月22日第1回福祉施設一体化ワーカー会議
 - 平成21年11月26日第2回福祉施設一体化ワーカー会議
 - 平成21年12月24日第3回福祉施設一体化ワーカー会議
 - 平成22年1月28日第4回福祉施設一体化ワーカー会議
 - 平成22年2月16日第5回福祉施設一体化ワーカー会議
 - 平成22年2月23日第2回福祉施設一体化検討会議
 - 平成22年3月16日第7回福祉施設一体化検討会議

(3)病院の機能充実

- ア 急性期病院等とのネットワークの強化(神奈リハ病院)
20年度に東海大学医学部付属病院との検討会を設置した。21年からは、2ヶ月毎に相互の病院で東海大学医学部付属病院医療連携情報交換会を開催した。
- イ 精神科外来におけるデイ・ケア等への取組み(神奈リハ病院)
具体化に向けて、医師、ケースワーカー、心理判定員、職業指導員、事務職員から構成する検討会議を12月1日に設置した。毎月第1木曜日開催として、21年度の開催実績は1/.21、2/4、3/4である。
21年度は対象者や精神デイケア治療等について検討をした。
- ウ 就労支援に向けた取組み(神奈リハ病院)
 - ①高次脳機能障害者の就労支援21年度
復職者は19人であった。
職場内リハビリテーション訓練は14名に対し61回実施した。
地域就労支援機関等との調整や支援(ネットワーク構築)を56回実施した。
H21.11.25、「就労支援機関活用のための講習会(22.3.6開催)」の打合せを実施し、神リハ病院を含め7機関が参加した。
22.3.6 就労支援機関活用のための講習会 開催
 - ②頸髄損傷者への就労支援
在宅就労に向けて支援を開始した利用者は5人であった。

エ 理学療法士の卒後教育への取組み(神奈川リハ病院)

県内医療機関に勤務する理学療法士を対象とした卒後研修を実施した。(平成19年5月 要領制定)
平成21年度は、参加しやすい卒後教育を実施するため、参加者の休暇(出張)のとりやすさ、受講料、プログラム構成、PT科の実行能力に関してのアンケートを行いその結果に基づき卒後教育を実施した。
結果県下の医療機関との技術交流を図り、当院が持つノウハウを他施設に還元することにより、県内のリハサービスの質的向上に寄与でき、併せて当院理学療法科職員の資質向上を図ることができた。

オ 脳卒中地域連携パスの推進(七沢病院)

神奈川県第5次保健医療計画において、「疾病別の医療連携体制の構築」として、脳卒中地域連携パスの県下統一に向けた取組みが位置づけられている。

これまで、県下統一化に向け様々な取組みを行ってきたが、平成21年9月には、神奈川県内の脳卒中ネットワークグループの合同会議が開催され、急性期・回復期・かかりつけ医の三位一体を心がけ、現場に支障のない範囲で県内のパス統一化が図られた。

七沢病院では、これまで、6つの地域連携パスのグループに参加していたが、さらに平成21年10月には川崎北部地域の地域連携パス(聖マリアンナ医科大学病院、聖マリアンナ医科大学東横病院、川崎市立多摩病院を計画管理病院とする)及び平成22年2月には、北里大学病院を計画管理病院とする「首都圏脳卒中連携パス」が新たに加わり8つのパスグループに参加している。

【脳卒中地域連携パスの実績】

平成21年度 196件

(参考:平成20年度 141件)

【21年度下半期の連携状況】

①神奈川県西部脳卒中地域連携懇話会(東海大学付属病院)

a平成22年3月16日(火)19:00~21:00 参加者 8名

②神奈川県央地区脳卒中地域連携パス(大和市立病院)

a第5回 平成21年11月27日(金)18:30~19:30 参加者 4名

b第6回 平成22年3月26日(金)18:30~19:30 参加者 4名

③神奈川県東部脳卒中連携の会(済生会横浜市東部病院)

a第4回 平成21年12月2日(金)19:00~21:00 参加者 2名

b第5回 平成22年3月23日(火)19:00~21:00 参加者 3名

【その他】

・湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会ワーキンググループ
(神奈川県秦野保健福祉事務所)

a第2回 平成22年2月25日(木) 18:30~20:00 参加者 4名

・湘南西部脳卒中連携懇話会

講演:山下病院長「神奈川県における脳卒中連携の現状とこれから」

・大磯プリンスホテル

・平成22年3月24日(水)19:15~20:30 出席者 3名

カ 検査教育入院機能の見直し(七沢病院)

脳卒中の予防や再発防止に向けて、昭和60年から「検査教育入(1週間~1か月の範囲)」として取り組んできたサービスメニューを見直し、平成21年9月より「生活習慣改善入院」と名称を改めるとともに、対象者を現役世代の若年層へ拡大するため、「1泊2日の短期体験コース」を設け新たなサービス提供を行った。
また、平成21年10月には医療保険適用の禁煙外来を開設して生活習慣病予防に合わせて取り組んだ。

<神奈リハ病院>

①高次脳機能障害者の就労支援

復職者は6人であった。

職場内リハビリテーション訓練は6人に実施した。

地域就労支援機関等への支援を3回実施した。

②高次脳機能障害セミナー講演集の作成・配布

平成21年2月に行われた高次脳機能障害セミナーでの講演内容を記録に残し、医療や福祉の現場で活用できるよう講演集としてまとめ、当事者団体等に配布を行った。

<七沢病院>

入院患者の40%強に言語障害があり、失行・失認は20%強の患者に見られ、多く患者が何らかの高次脳機能障害を有し、日常生活に支障をきたしているため、在宅生活適応能力の向上を図るため、臨床心理士、PT、OT、ST、看護師等による総合的アプローチを実施した。

ク クリニカルパスの推進(2病院)

<神奈リハ病院>

医療の質の向上を図るため、脊髄損傷、高次脳機能障害、変形性股関節症(術中を含む)、小児脳損傷脳血管障害にクリニカルパスを導入し実施した。

実施状況

平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化が図られた。

① 各クリニカルパスチームのパスミーティング

- ・変形性股関節症→毎週
- ・脊髄損傷→2週1回
- ・高次脳機能障害(リハ科/脳外科)→毎週
- ・小児脳機能障害→毎週
- ・術中(変形性股関節症)→随時実施

② クリニカルパス全体会議→年1回

- ・各クリニカルパスの現状報告

<七沢病院>

医療の質の向上を図るため、引き続き、2つのクリニカルパスにより実施した

入院から退院までの一貫した流れの図式ができ、患者を含め情報を横断的に共有できることで入院期間の短縮やチーム医療の徹底を図った。

《クリニカルパスの種類》

- ・脳卒中リハビリテーション・クリニカルパス
- ・検査教育入院クリニカルパス

ケ 栄養療法の推進(2病院)

<神奈リハ病院>

医師、栄養士、看護師等で構成する栄養サポートチームによる栄養療法を実施した。

他に入院時、患者全員を対象としてスクリーニングを実施し、栄養管理計画書を作成した。

実施状況

- ・平成21年度対象者 4名
- ・平成20年度対象者 9名
- ・平成19年度対象者 3名

<七沢病院>

入院時栄養スクリーニングは全患者に実施されるようになり、NSTの介入を必要とする患者に対し、医師、看護師、管理栄養士をはじめ、担当する療法士等を含めチームにより定期的(毎週水曜日)に病棟回診を行った。

栄養サポートチームによる患者情報の共有化が図られ、それぞれの対場から低栄養や摂食・嚥下障害患者に対する検討を行うことで、患者の栄養管理ができた。

コ 摂食・嚥下障害への取組み(2病院)

<神奈リハ病院>

平成20年12月に改訂した「摂食・嚥下障害食基準」に基づき、医師・看護師・PT・ST・栄養士等のチームでリスク管理をしながら、早期の経管栄養からの離脱及び安定した経口摂取への移行に取り組んだ。

21年度の対象者は、小児12人(嚥下障害12人)、成人83人(嚥下障害47人、摂食障害36人)。

<七沢病院>

摂食・嚥下障害のある患者に対しては、摂食・嚥下障害看護認定看護師と他職種(医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)によると共に回診することで、多角的な視点からアプローチを引き続き実施している。

NST活動報告・平成21年度実績

○スクリーニング件数 入院患者全員対象合計(841件)

○NST回診件数 合計(81件)

毎週水曜日 所要時間1時間から1時間30分

NST依頼内容「摂食嚥下障害」(食形態アップ)

・「摂食・嚥下外来」の設置

在宅生活を送る脳血管疾患患者やその家族を対象に、「食事の時にむせる」・「飲み込みに時間がかかる」・「なかなか飲み込めない」・「食事について知りたい」など様々な事柄でお困りの方へ医師や摂食・嚥下認定看護師が対応する専門外来を開設した。

平成21年4月開設 診療日：毎週火曜日午後

news脳血管センター21号に専門外来設置を掲載し、情報発信した。また、22号では管理栄養士が「嚥下食について」～家庭で嚥下食を作るためのアドバイス～として、食べやすい食材の大きさや誤嚥防止の

ためのとろみのつけ方など誰にでも分かりやすい内容で情報提供した。

・教育研修の充実

毎月(第2水曜日)勉強会を開催し、摂食・嚥下障害に対する専門知識や技術の向上に向け取り組んだ。

・脳卒中患者のリハビリテーション『嚥下体操』のDVD化

—1日1回15分の嚥下体操を行い、脳卒中後の誤嚥を予防！—

脳卒中後は、食べ物が誤って気道に入る「誤嚥」が起きやすくなり、肺炎(誤嚥性肺炎)の原因にもなり、これを防ぐことは大切なことから、様々な運動プログラムで構成され嚥下体操を首都大学東京健康福祉学部看護学科と協同制作でDVD化した。

各病棟においてDVDを利用して入院患者さんが自主的に嚥下体操を実施している。

この他【歌で誤嚥を防ぐ】実践編として、1日1曲好きな歌を歌うと食べ物を飲み込む時に使う様々な筋肉を鍛えられることから、効果の高い曲を選びカラオケCDと合わせて病院内売店2,800円(定価3000円)

で取り扱っている。

サ 再生医療後のリハビリテーションの研究への取り組み(2病院、研究部)

再生医療は、現状では基礎研究の段階であるが、近い将来臨床に利用されることは必至であり、その段階で脊髄損傷者などへの再生医療の効果判定等、臨床的・実践的な研究に取り組むこととする。

(4)地域支援センター機能の充実

ア リハビリテーション専門相談の充実

①綾瀬市とのモデル事業構築

綾瀬市、地域支援センター、福祉監査指導課の三者で協議、2年間のモデル事業として取り組んだ。

綾瀬市の人材の横の連携を深めることを目的に委員会を立ち上げた。

綾瀬市役所、基幹病院、ケアマネ協会、医師会も協力的である。リハのパイロット的取り組みであるが、神奈川県構想に記載のある、リハ人材の育成、リハ連携システムにつながることから、県も積極的に協力していくこととなった。

H22.2.5 研修会「脳卒中のリハビリテーション」開催

主催：綾瀬市地域リハ推進連絡会

場所：綾瀬市文化会館小ホール

H22.3.18 第2回「綾瀬市地域リハ推進連絡会」開催

場所：綾瀬市役所309会議室

委員：医療・福祉・介護関係者13人参加

議題：(1)21年度事業の実施状況について

・研修事業について

・訪問支援について

(2)22年度事業の実施計画について

・研修事業について

・訪問支援について

また、22年2月13日に開催された「かながわ地域リハフォーラム」において発表した。

シンポジウムテーマ

「神奈川県における地域リハビリテーションの連携と人材育成—綾瀬市における取り組み—」

②アンケート調査

リハ専門相談の充実を図るため、今年度訪問相談を実施した地域の関係機関に対し、アンケート調査を実施した。

アンケート結果については、分析し対応策を共有し、専門相談の改善に向け努力した。

1 調査の概要

・対象件数 75件

・回収件数 62件(回収率82.6%)

2 アンケート項目

・リハ専門相談を知ったきっかけは

・相談対象者の年代は

・訪問はその後の支援に役立ったか

・訪問した利用者は満足されたか

・リハ専門相談は必要か 他(全11件)

イ 専門職員研修の充実

・21年度新規研修

- ① 補装具専門研修 22.2.23日開催
- ② 変形股関節症の理学療法 21.6.27～28日開催
- ③ OT・PTポジショニング入門研修 22.1.23日開催
- ④ その他

11月17日 綾瀬市役所で公共交通従事者研修開催

2月5日 綾瀬市役所で「脳卒中のリハビリテーション」開催(再掲)

ウ リハビリテーション情報の提供

H21年度は、事業団全体のホームページの見直しにより、わかりやすい構成で再整理するとともに、ホームページ内の検索機能を追加するなど、利用者の利便性の向上を図った。

・地域支援センターだよりの創刊 ※ホームページに掲載

平成21年5月より毎月発行

- ① 地域支援センターの事業の紹介
- ② リハ専門研修の案内
- ③ 専門相談の実績
- ④ 相談事例の紹介等

エ 一般県民等に向けたフォーラムの開催

「かながわ地域リハビリテーションフォーラム」平成22年2月13日(土)労働プラザで開催

参加者136名。

- (1) 特別講演 テーマ:「地域リハの来し方行く先」
講師:大田仁史氏(茨城県立医療大学名誉教授)

- (2) シンポジウム

テーマ「神奈川県における地域リハの連携と人材育成」

シンポジスト:横浜リハ、川崎北部リハ、綾瀬市、県リハ支援センター各1名

オ 高次脳機能障害支援普及事業の充実

- ① 高次脳機能障害者支援の充実・地域連携を進めるため、21年度は相模原市との連携・強化を図った。

H22.3.8 第2回「支援システム検討委員会」開催

場所:相模原市教育会館

委員:病院、行政、相談事業所関係者13人参加

議題:(1)高次脳機能障害研修会について

(2)相模原市における高次脳機能障害支援について 他

- ② 高次脳機能障害セミナー(実務編)の講演集の作成

このセミナーでの講演内容を記録に残し、医療福祉の現場で活用できるよう講演集としてまとめ、関係団体等に配布を行った。

ア 「脳外傷による高次脳機能障害」

(神奈川県リハ病院リハ科 大橋正洋)

イ 「高次脳機能障害を考える」

(神奈川県リハ病院 心理科 下田正代)

ウ 「脳外傷による高次脳機能障害とOT科の取り組み」

(神奈川県リハ病院 作業療法科 梅村文子 他)

エ 高機能障害者の相談支援

(神奈川県リハ病院 医療福祉総合相談室 瀧澤学)

- ③ ナナの会主催の研修会の協力

H21.10.18「高次脳機能障害講演&シンポジウムin南足柄」

講演「高次脳機能障害と生活」

神奈川県リハ病院 脳神経外科 所和彦

シンポジウム「就労・地域生活を支える」

神奈川県リハ病院 相談室 蒔田桂子

(5)研究・開発機能の充実

ア 臨床的・実践的な研究・開発の推進

平成22年度からの研究計画(3年計画)のヒヤリングを実施し、新たな研究計画を策定する中で、障害に対する基礎的研究から社会福祉あるいは社会開発に対して直接貢献する研究として福祉分野の研究体制を整えた。

(研究テーマ)

- (1) 障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究
- (2) 障害者に関する福祉学・医学的研究
- (3) 障害児者に関する計測的・工学的研究
- (4) 障害児者に関する移動及び姿勢制御等の研究
- (5) 福祉機器の開発及び評価支援システムに関する研究
- (6) 障害児者の生活の質に関する研究

任期付研究員1名採用により、福祉分野の研究体制を整えロービジョンに関する研究、障害者の外出援助の研究を推進した。

現在、連携を行なっている大学

○ 首都大学東京(藤井)

「福祉のまちづくり」4輪歩行車による要介護高齢者の歩行支援」
研究発表 4題

○ 東海大学工学部 曲谷研究室(永田)

「表面筋電図の分析と義肢制御への応用に関する研究」
研究発表 13題(共同演者含む)

○ 兵庫県立福祉のまちづくり研究所(兵庫リハ) 研究第一グループ(柳原)

「ロービジョン者に配慮した音と光を用いた歩行空間ユニバーサルデザインに関する研究」
研究発表8題(共同演者含む)

各種委員会における共同研究等

市町村等からの依頼に基づき各種委員会に参加し、福祉の町づくり、福祉用具等の安全基準作成、交通バリアフリーに関する調査研究を行なった。

○ 福祉用具等の安全安心基準作りに関する調査研究

・かわさき基準推進協議会規格評価運営委員会委員

(藤井 年6回 川崎市独自の福祉用具の安全基準を作成中)

○ 交通バリアフリーに関する共同研究

・ECOMO交通バリアフリー研究助成審査委員会委員

(藤井 年3回 最新の障害者・高齢者の交通バリアフリーに関する研究審査、障害者・高齢者の公共交通機関 利用時における乗降及び車内安全性に関する研究)

・福祉交通サービス特別研究委員会(藤井 年3回)

福祉交通セミナー等開催(2回)

○ 福祉のまちづくりに関する研究協力

- ・ 町田市福祉のまちづくり推進協議会委員(藤井 年6回)
- ・ 厚木市移動円滑化基本構想推進委員会(藤井、柳原年3回)
- ・ 多摩地域福祉有償運送サービス運営協議会(藤井 年4回)
- ・ 横浜市バリアフリー検討協議会(柳原 年6回)

- 学会発表(今年度の主な実績)
 - <障害医学関係～電気生理学的研究 主な学会発表15題>
 - (共同研究による発表11題は「他大学等との共同研究への取組み」の項参照)
 - ・日本生体医工学会大会(4月 東京 永田発表)
 - 「SEMGを利用した動作認識システムにおける計測電極位置と動作認識精度の関係」
 - ・第31回 IEEE生体医用工学国際学術大会(9月 米国ミネアポリス 永田発表)
 - 「モンテカルロ法を利用した動作認識精度に対する表面筋電図計測位置が与える影響の評価」
 - ・日本臨床生理学会(11月 北九州 山田発表)
 - 「異なる刺激強度で計測したF波を用いた運動単位活動電位の抽出」
 - ・計測自動制御学会(12月 東京 永田発表)
 - 「手の動作認識に適した表面筋電図の特性の解析」
 - ※ 今年度の文部科学省科学研究補助に採択された研究課題
 - <リハ工学関係～歩行分析にかかる研究 主な学会発表10題>
 - (共同研究による発表9題は「流動研究員の項」参照)
 - ・日本めまい平衡医学会学術大会(11月 徳島 國見発表)
 - 「額関節症に対するスプリント療法時の立位姿勢」
 - <リハ工学関係～車いす開発に関する研究 主な学会発表 3題>
 - ・日本技師装具学術大会(10月 沖川発表)
 - 「チルト&リクライニング式車いすの小回り性能向上と姿勢保持機能について」
 - <リハ工学関係～福祉の町づくり、障害者高齢者の外出援助に関する研究 主な学会発表12題>
 - (共同研究による発表8題は「他大学等との共同研究への取組み」の項参照)
 - ・ロービジョン学会(7月 北海道 柳原発表)
 - 「高齢者・視覚障害者用LED 音響ボールの実用化検証」
 - ・リハビリテーション工学カンファレンス(8月 埼玉 藤井発表)
 - 「4輪歩行車による要介護高齢者の外出支援研究」
 - ・日本福祉のまちづくり学会(8月 藤井・柳原発表)
 - 「要介護高齢者の四輪歩行車を使用した外出」(藤井)
 - 「視覚障害者の移動環境整備に関する研究」(柳原)
 - ・第10回欧州リハビリテーション工学協会カンファレンス(9月 イタリア フィレンツェ 柳原発表)
 - 「LED照明を用いたロービジョン者の夜間歩行支援に関する研究」

イ 研究体制の見直し

- 福祉分野の研究体制の整備
 - 任期付研究員の採用(5月1日)
 - ・リハビリテーション工学研究室研究員 1名
 - ・期間 平成21年5月1日から (3年間)
 - ・主な研究テーマ「視覚障害者の移動環境整備に関する研究」
 この研究員は「文部科学大臣表彰若手科学者賞」「土木学会論文奨励賞」を受賞した。
- 内部職員による流動研究員の実績はないが、次の研究協力を行なった。
 - (主に、歩行分析器を利用し 研究を行なっている 主な研究10件)
 - ・小児科医師への研究協力
 - 研究テーマ「脳外傷児における口腔スプリントによる歩容の改善」
 - (リハビリテーション医学会発表、静岡)
 - ・リハビリテーション科医師への研究協力
 - 研究テーマ「治療的電気刺激の効果 歩行の改善」(現在研究を継続中)
 - ・整形外科医師への研究協力
 - 研究テーマ「膝関節症に対する治療(手術)の効果 歩行の改善」(現在研究を継続中)
 - ・理学療法士への研究協力(4件)
 - ・研究テーマ「完全対麻痺患者におけるトランスファー動作分析」
 - (日本理学療法学会発表 東京)
 - ・研究テーマ「水中環境が体勢感覚に及ぼす影響」(神奈川県理学療法士会会報に掲載)
 - ・研究テーマ「平衡機能障害患者に対する理学療法」(めまい平衡医学会発表 徳島)
 - ・研究テーマ「動作中の体幹筋群の収縮動態の分析」(現在研究を継続中)
 - 目白大学保健医療学部作業療法学科 玉垣准教授の研修受入れ
 - ・研究テーマ 作業療法士の徒手的技術の分析と技術教育の体系化に関する研究
 - 昭和大学神経内科 南雲医師との共同研究
 - ・研究テーマ「ハンカチ引き手技による小脳型運動失調歩行の改善」
 - (日本神経学会学術講演会発表)
 - 企業(本田技術研究所)との連携による共同研究
 - ・研究テーマ「歩行補助装置」

(6)地域の関係機関との連携強化への取組み

ア 福祉施設の地域社会との連携

(ア) 地域の関係機関との連携

<七沢療育園>

・地域支援班が県の委託により、重症心身障害児の巡回訪問を実施し、個人宅及び作業所などを訪問している。また、活動を通して新たな重心児者の相談を受け、適切なサービスの紹介・提供を各所管の児童相談所と連携をとりながら、実施している。

(巡回訪問指導： 実施回数125回対象者数177名、対象人員延213人、新規対象者数52名)

・例年、専門学校の介護実習、高校生等の介護体験等を計画しており、ボランティアの随時募集も行なっている。現在定着しているのが、月2回、入浴時水分摂取お手伝いの方1名、月2回の園庭の手入れに2名である。他、4月から3ヶ月ほど食事介助ボランティアの方を受け入れた。

<七沢第一・第二更生ホーム>

・講師派遣の実績

- ①地域支援センター主催の研修講師(5名)
- ②神奈川県相談支援従事者初任者研修演習講師(1名)
- ③神奈川県相談支援従事者現任研修演習講師(1名)
- ④神奈川県サービス管理責任者研修関係会議と実践講師(2名)
- ⑤国主催サービス管理責任者指導者研修(地域身体)への参加(1名)
- ⑥神奈川県サービス管理責任者研修関係会議と実践講師(1名)
- ⑦ローリングバレー審判講習講師(1名)
- ⑧市町村ガイドヘルパー講習会(2名)
- ⑨障害者の調理方法研修講師(1名)
- ⑩厚生労働省委託調査研究への参加(1名)
- ⑪厚木・愛川地区自立支援協議会への参加
- ⑫厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会

・生活支援部会

・進路就労支援部会への委員派遣

⑬厚木市身体障害者ガイドヘルパー養成事業 講師派遣(2名)

⑭寒川町外出ボランティア養成講座 講師派遣(1名)

・進路就労支援部会への委員派遣

⑮厚木市身体障害者ガイドヘルパー養成事業 講師派遣(2名)

⑯愛川町外出ボランティア養成講座 講師派遣(1名)

・更生ホームの事業展開に対しての視察希望・支援学校の卒業後の進路指導として教員・保護者・当事者の見学希望また教員の体験研修や資格取得の過程で必要な学生の単位実習の受け入れ・行事や所内訓練でのボランティア導入など、これまで通り積極的に受け入れ対応している。

①視察受け入れ 行政からの視察9件 施設職員の視察6件

②研修受け入れ 市町村新任研修1件45人 医療機関MSW対象の事業説明会1件30人

③県立保健福祉大学学生見学実習1件

④支援学校見学教員・家族・当事者6件

⑤海外研修生2件

⑥民生委員3件

<七沢ライトホーム>

・県内の関係機関で組織する神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会が開催する連絡会及び事例検討会に職員を派遣し連携をはかっている。

①事務連絡会 6月18日(木)、9月17日(木)、1月21日(木)、3月18日(木)

②コミュニケーション指導事例検討会 6月23日(火)、10月6日(火)、1月19日(火)

③歩行事例検討会 6月24日(水)、7月30日(木)、10月16日(金)、2月10日(水)

④日常生活指導事例検討会 7月23日(木)、3月4日(木)

・厚木市・愛川町・清川村障害者自立支援協議会の生活支援部会に職員を派遣し、地域との連携を深めている。

①第3回生活支援部会 12月22日(火)

②第4回生活支援部会 3月5日(火)

・県内の社会福祉協議会や関係団体が主催するガイドヘルパーやボランティア養成講習会、スポーツ大会等に講師及び審判を派遣した。

- ①10月3日(土)横浜市在宅者援助講座
- ②10月19日(月)厚木市誘導法講座
- ③10月8日(木)藤沢市訪問介護員養成研修
- ④12月11日(木)藤沢市訪問介護員養成研修
- ⑤11月17日(火)公共交通従事者研修(地域センター主催)
- ⑥11月20日(金)厚木市ガイドヘルパー養成研修
- ⑦11月24日(火)厚木市ガイドヘルパー養成研修
- ⑧11月27日(金)厚木市ガイドヘルパー養成研修
- ⑨12月3日(木)海老名市ガイドヘルパー養成研修
- ⑩3月5日(金)愛川町外出支援ボランティア養成講座
- ・STT(サウンドテーブルテニス)大会審判派遣の実績
 - 10月18日(日)藤沢市長杯争奪STT大会審判
- ・障害者スポーツ指導者・ボランティア養成講習会養成講習会講師
 - 11月8日(日) 12月6日 大学生向け障害児者への運動指導講習会講師
 - 3月7日(日)県初級障害者スポーツ指導者養成講習会講師
- ・厚木看護専門学校看護第二学科講師
 - 9月3日(木) 9月7日(月) 9月24日(木)
 - 9月28日(月) 10月8日(月) 10月15日(木)
 - 10月20日(火)
- ・厚木看護専門学校看護第一学科講師
 - 11月4日(水) 11月11日(水) 11月18日(水)
 - 11月25日(水) 12月2日(水) 12月9日(水)
 - 12月16日(水)
- ・厚木看護専門学校講師会議出席 看護第一・第二学科
 - 3月10日(水)

(イ) 地域社会における障害者理解への取り組み

<七沢療育園>

例年、専門学校の介護実習、高校生等の介護体験等を計画している。また、ボランティアは随時、募集をしている。

園行事(夏祭り 運動会)には踊り、歌などのボランティア団体に参加していただく。

<七沢学園>

・H21.10.24 学園祭の開催

更生、ライトとの合同文化祭でやや停滞気味の改善に、バザー参加に2カ所増の事業所出店、舞台発表に地域の三味線同好会の参加をはかり盛り上げ、施設、地域からの多数の来園があった。

・H21.12.6 玉川、森の里地区マラソン大会に参加。

地区で恒例に開催されている行事に男女13名の園生が参加する。恒例になっており、参加依頼もあり、地域の方との交流もはかられている。上位選手は次の厚木市駅伝の大会のメンバー候補にも選ばれ、施設と地域の関係にも役立っている。

・実習生受け入れについては、保育士資格のための保育実習、教員資格のための介護実習、看護学生の臨地実習など多種にわたる学生を幅広く受け入れている。118件、のべ311日間の実習を提供した。

・ボランティアについては、行事だけでなく、日中訓練場面や児童寮の土・日曜日の寮活動、家族短期事業場面とあらゆる活動で受け入れている。171件、のべ243人のボランティアを受け入れた。また2月にはボランティアと利用者との交流会を企画している。

・見学者受け入れについては、各種の学校、保護者、民生委員が来られた。17件、のべ271人の見学者を受け入れた。

・H22. 3. 玉川公民館まつりに参加

① 訓練の作業で作っている作品を中心に展示

② 学園祭などで発表している児童によるダンス8名(見学1名)の舞台発表を行い好評だった。今年が初めての参加であったが特別視もなく温かい迎え方をして頂きこのびと発表ができていた。次年度にも期待される。

<七沢更生ホーム、ライトホーム、地域支援センター>

公共交通事業者研修 障害者外出支援・バス利用編

バスの運転手を対象に、講義と車いす、アイマスクを使った実技により、ノンステップバスを利用した乗降場面等を介助する側、される側になって体験することで、障害者理解の促進と安全なバスの利用方法について理解が深められた。

<七沢更生ホーム、地域支援センター>

H22.2.26 ヘルパー向けの講習会の開催(大和市民センター)

単身生活者の食事づくりを援助する「片手でクッキング」の技術講習と講演を行なった。

<七沢更生ホーム>

更生ホームの事業展開に対するの視察希望・支援学校の卒業後の進路指導として教員・保護者・当事者の見学希望また教員の体験研修や資格取得の過程に必要な学生の単位実習の受け入れ・行事や所内訓練でのボランティア導入など、これまで通り積極的に受け入れ対応している。

- 視察受け入れ 行政からの視察4件16人 施設職員の視察2件5人
 - 研修受け入れ 市町村新任研修1件45人 医療機関MSW対象の事業説明会1件30人
 - 現任研修 かがわりハビリテーションセンター2泊3日生活支援員2人
 - 海外研修生(アガベ研修生)タイ・中国 各一人2日
 - 神奈川県医療社会事業協会MSW 5病院5人
 - 県立保健福祉大学学生見学実習1件8人
 - 支援学校見学教員・家族・当事者3件9人
 - 教職員社会体験研修2校2名
 - 行事・所内訓練でのボランティア導入多数。今後も市町村民生委員3団体からすでに見学依頼あり。
 - 社会福祉士資格取得実習1校1名
 - 教員免許取得介護体験研修3校3名
 - 介護福祉実習1校1名
 - 平成21年4月～12月の研修・見学者受入数210名
 - ボランティア受け入れ
 - ・7月27日～10月26日 パソコンボランティア
 - ・9月24日～12月11日 職能校受験対策 月水木に実施
 - ・10月24日 文化祭ボラ 47名
 - ・12月20日 吹奏楽演奏 4名
 - ・12月14日 実習棟 家事援助1名
 - ・12月16日 実習棟 家事援助1名
 - ・12月29日 バンド演奏5名
 - ・毎月第一木曜日 臨時喫茶コーヒーボランティア1回10名程度
 - ・生け花ボランティア4日1人
 - ・車椅子修理1日8人
 - ・職能校受験学習ボランティア21日1人
 - ・パソコン指導30日1人
 - ・合唱同好会12日5人
- 平成21年度ボランティア件数92件 受入ボランティア延べ人数341人

<ライトホーム>

- 実習生の受入れ
 - ・日本ライトハウス視覚障害生活訓練等指導者養成課程履修者1名 10月19日(月)～12月21日(月)
- ボランティアの受入れ
 - ・第24回藤沢市長杯STT大会に誘導ボランティア7名が参加10月18日(日)
 - ・社会見学(防災センター)に6名の誘導ボランティアが参加11月27日(金)
 - ・行事の一環として行っている新年懇親会に9名のボランティアを招待した。1月6日(水)
 - ・社会見学(防災センター)に6名の誘導ボランティアが参加11月27日(金)
 - ・行事の一環として行っている新年懇親会に9名のボランティアを招待した。1月6日(水)
 - ・STTけやき大会に出場した利用者の会場内移動の支援に誘導ボランティア4名が参加 3月7日(日)
 - ・ヨーガセラピー(H1年12月から概ね月1回講師来所:ストレスを解消するため、あまり身体を動かさずリラックスした動作をする。)

イ 2病院の地域医療機関との連携

(ア) 地域と一体となった障害者支援

<神奈リハ病院>

次のとおり、地域との連携に取り組んでいる。

- ①厚木病院協会地域連携委員会への参加
- ②神奈川県西部MSW連絡会への参加
- ③地域支援センター兼務の医療福祉総合相談室地域連携担当職員の圏域・市町村障害者自立支援協議会への参加(地域支援センター)
- ④厚木市障害者自立支援協議会ヘルパー研修等への協力(地域支援センター)
- ⑤綾瀬市地域リハ体制整備に向けた試行的取組(地域支援センター)
- ⑥県城市町村担当者対象の病院説明・見学会の実施
- ⑦脊髄損傷当事者団体との協働支援事業の検討
 - H22.1.14 診療協議会の開催 地域医師会、県病院協会、救急救命センター等の関係者の出席により、病院の現状等の報告と質疑を行った。

ボランティアの受入

ボランティアコンサート(音楽療法)他、多数の受入を実施した。

<七沢病院>

- ① 地域の障害者の相談・支援に携わる県内医療機関MSWを対象とした「神奈川リハ病院・七沢更生ホーム見学説明会」において、医療福祉総合相談室SWから七沢病院概要説明等を行うとともに、パンフレット・入院申込書等を配布し、地域関係機関との連携を図っている。
- ② 厚木市、愛川町、清川村に居住する障害者が住み慣れた地域で安心して豊に暮らすことができるよう障害者自立支援法に基づく障害者福祉に係る体制の整備等に関する協議の場として設置された自立支援協議会に、引き続き参加している。

○平成21年度開催状況

【障害者自立支援協議会(生活支援部会)】

・第3回

日 時:平成21年12月22日(火)

場 所:厚木パートナーセンター

テーマ:・ヘルパー応援実行員会報告

・精神障害者地域移行WG報告

・グループディスカッション

「地域で支えていくために」

・第4回

日 時:平成22年3月5日(金)

場 所:厚木市総合福祉センター

テーマ:平成21年度各種活動報告

ボランティア活動の受入

個人 ・車椅子修理(月2回)、音楽療法(月1回)

団体 ・院内移動図書(週1回、ランパスの会)・囲碁将棋教室(月1回、南毛利地区民生委員、児童委員)

各個人、団体の活動は大変好評で入院生活のなかで楽しく過ごすひと時となっています。

H21.12.19 クリスマスコンサート

1.3 獅子舞・お囃子

3.6 春のコンサート

【ボランティアの集い】の開催

H21年10月16日13時から

各ボランティアの方々に、当院をより理解してもらおう。また、意見交換を通じて相互理解を深める。

内容

講習会及び院内の訓練の見学を実施

テーマ

「知って得するインフルエンザ」

講師 感染対策担当看護師

参加者

5団体 13人

(イ) 救急医療に取り組む大学病院等との連携への取り組み

<神奈リハ病院>

20年度に東海大学医学部附属病院との検討会を設置した。21年からは、2ヶ月毎に相互の病院で東海大学医学部附属病院医療連携情報交換会を開催している。21年度の開催実績は5/18、7/13、12/14、3/8である。

また、脊髄損傷と脳損傷に関して「DrTODr」(東海大学病院の窓口担当医師から神奈リハ病院の窓口担当医師へのホットライン)により、患者の早期入れを行っている。

・大学病院等からの紹介実績

19年度 732件(111件)

20年度 614件(86件)

21年度 607件(70件)

* ()内は、東海大学病院からの件数で内数

<七沢病院>

東海大学からの神経内科、脳神経外科医師の派遣を踏まえ、脳血管疾患患者の早期受け入れに向けて、救命救急センターとの連携強化に取り組んでいる。

また、「DrTODr」(東海大学病院等の急性期病院主治医から入院コーディネーター医師へのホットライン)により、発症後症状の安定した患者の早期入れを行い、リハビリテーション医療を提供している。

・大学病院等からの紹介実績

19年度 342件(162件)

20年度 237件(143件)

21年度 180件(118件)

* ()内は、東海大学病院からの件数で内数

(7)専門職員の育成

ア 専門研修等の充実

<七沢療育園>

園内の研修は今年度も看護科・支援課と共同で計画・実施している。

- ①10月15日尿路感染 7名
 - ②11月16日重心者の療育「スヌーズレン」 7名
 - ③12月12日新型インフルエンザの理解 8名
- 外部の研修も、例年通り、日本重症児福祉協会他の各種研修に出席した。
- ①10月5・6日、重症心身療育学会(小樽)支援員2名
 - ②11月12・13日、東日本施設長会(横浜)園長他4名
 - ③12月2～4日施設職員研修会(鹿児島) 師長1名
 - ④12月9～11日、施設職員研修会(大阪)支援員1名
- 他、1月20～22日施設職員研修会(大阪)施設管理者1名実施予定
- ①11月19日全事協職員リーダーシップ研修(栃木)支援課長1名
 - ②11月25日県公益法人 ハラスメント研修(横浜)課長1名

<七沢学園>

A 職場内研修

- ・研修を通して職員の資質向上を図ること目的に「園内研修会」を計画。9月より毎月実施している。
- ・OT森岡科長による研修「園児との付き合いが楽になるのか」10/30実施
- ・研修報告「第7回全国知的障害児発達支援施設運営協議会」

B 職場外研修(中央,厚木児童相談所) 学園研修計画プロジェクトにて計画、厚木児相談所に、職員1名を11月に派遣し、5日間体験研修を実施した。1月は中央児童相談所を実施。

C 派遣・交流研修の充実

- ・就業支援基礎講座10/30～12/30(3日間)
- ・社会福祉士実習指導者講習会に1名受講し修了。12/19,20(2日間)
- ・強度行動障害事例研究会(中井やまゆり園)7/10～3/11の4日間。
- ・強度行動障害現任研修(中井やまゆり園)8月。9月各3日間 2名参加。
- ・サービス管理責任者研修の講師として、12月に2名の職員を派遣した。
- ・2/5に神奈川県知的障害者福祉協会実践報告会で「七沢学園の短期入所受け入れ状況と考察」テーマに研究発表を予定。
- ・2月12日開催の事業団研究発表会にて演題2目を発表

<七沢第一・第二更生ホーム>

福祉施設合同研修

H21.10.09インフルエンザ感染対策

講師 内科 水口医師

H21.11.05 人権擁護 福祉施設における不祥事の状況

講師 あつぎネットワーク 高橋眞木

H22.1.27

「社会福祉施設におけるリスクマネジメント今日的課題」

講師 県保健福祉部参事 加藤芳明氏

神奈川リハ主催研修への参加

- ・21.10.21 臨床研究会 脳血管障害と高次脳
 - ・22.02.15 安全衛生研修会 医療従事者のメンタルヘルツ
 - ・22.02.12 人工眼研究の最前線
- ##### 施設外研修
- ・21.10.01 労働衛生研修会
 - ・21.10.09 障害福祉施設協議会研修会
 - ・21.11.13 苦情解決研修会
 - ・21.12.07 専門性を向上させる研修 全事協中央研修
 - ・21.12.21 身体障害者施設協会職員研修
 - ・22.01.24 神奈川能外傷リハビリテーション講習会
 - ・サービス管理責任者研修

高次脳機能障害支援事業関係職員研修会

- ・11.18～19 身体障害者リハビリテーション研究大会
 - ・3.20～21 日本リハビリテーション連携科学学会
- ##### 研究発表
- ・21.11.18 2009リハビリテーション研究集会 三題発表
 - ・22.02.15神奈川リハ研究発表大会 二題発表

<ライトホーム>

1 職場内研修(OJT)の充実

- ・10月1日「視覚障害者の歩行支援環境について」
講師:神奈川リハ病院研究員
土木学会で受賞されたテーマを中心に、視覚障害者の歩行環境についての講義を実施。
- ・センター研究発表に出席できなかったライト職員を対象に後演会を実施して共有化した。

3月5日(金)

視覚障害者のパソコン指導

視覚障害者の点字読み指導

視覚障害者のレクリエーションと支援施設の関り

- ・3月17日(水)

七沢ライトホーム利用者と進路

・伝達研修

昨年に引き続き職員2名に対し点字訓練およびパソコン訓練を担当するための所内研修を継続実施した。

2 職場外研修(OffJT)の充実

- ・10月28日～31日 視覚障害・就労支援者講習会
- ・11月13日 苦情解決研修会
- ・12月25日 サービス管理責任者研修・全体講習
- ・12月8日 感覚代行シンポジウム
- ・1月14・15日 弱視教育全国大会
- ・2月3・4日 サービス管理責任者研修

<神奈川リハ病院>

医療安全管理会議等が企画する病院内の専門研修を企画・実施している。平成21年度は、感染対策、医療事故防止、離院離棟防止、集中ケア認定看護師によるBLS演習、新型インフルエンザ対策、接遇、院内暴力対応等23種の研修を実施した。

<七沢病院>

患者の人権擁護、医療安全、感染対策等利用者サービス向上のため、研修を開催し、医療従事者として必要な知識の向上に努めている。

a 職場内研修(OJT)の充実

所属ごとに、技術の伝承や職場の全体的なレベルアップを図るため、職場内研修を実施している。

【実施状況】

職員研修会

12月4日 看護研究発表会

参加者 60名

H22.1.19 介護保険について～基礎編～

参加者 47名

1.27 よい聞き手になるために ～傾聴の意味と意義～

参加者 36名

2.25 脳卒中研究会

参加者 36名

2 利用者本位のサービスの提供と安全対策

(1)人権擁護と個人情報の保護

ア 人権擁護と個人情報保護への取組み

(ア) 利用者の人権擁護や個人情報に関する研修の実施

<七沢療育園>

個人情報保護、人権擁護、ハラスメントの防止等については、日頃の、お互いの声かけ、注意がリスクの予防には重要と認識し研修を行った。

21年度は、支援課会議、看護科会議、職員会議に上記3点の個人情報保護、人権擁護、ハラスメントの防止について伝達・研修を実施した。また朝のミーティング時に、都度、対応等への意識付けを行っている。

<七沢学園>

- ・利用者の人権擁護に関する職員の意識向上に向けた取り組みとして福祉施設合同研修を11月5日に実施。
- ・人権擁護会議(Aネット協力員) 7/30より厚木地区グループホーム訪問相談を開始した。相談を通じ必要な情報を各会議に提供し人権に関する意識を高めていく。学園担当は年3回、相談会活動に協力。
- ・Aネット利用者交流会(11/17、1/29)に利用者5名参加。
- ・12月に利用者自治会を発足させた。

<七沢第一・第二更生ホーム、ライトホーム>

人権擁護・虐待防止についての職員研修実施

不祥事の事例等を踏まえ事故防止に向けた取組みについて研修を実施した。

<七沢病院>

医療従事者として、利用者に対する患者本位の医療の重要性と個人情報保護に対する必要性があることから、次のとおり取り組んでいる。

【実施状況】

各種の職員研修会を通じ利用者に対し患者本位の医療、個人情報の重要性及び人権の尊重等を研修している。

(イ) 苦情解決への取り組み

<七沢療育園>

第三者委員は毎月第4水曜日に来園し、保護者からの相談や苦情等に対応している。

実施状況

・苦情件数 施設受付件数 1件

《内容》職員の支援方法

*利用者の家族からの苦情・要望に対して適切かつ速やかに対応し、課題解決を図るとともに、職員会議等で周知し、苦情等の内容を共通認識した上で、今後の支援の取り組みに生かすよう制度の活用を図った。また、内容も第三者委員等に報告している。

苦情解決委員で構成する福祉施設苦情解決委員連絡会

・第2回 10月27日開催

<七沢学園>

苦情解決への取り組み

毎月オンブズマン又は第3者委員による個人相談を実施した。

苦情内容への対応については、案件の内容を勘案し必要に応じて、支援会議等にて検討し、苦情申し出本人または、第三者委員等に回答した。

なお、第三者委員は毎月第三日曜日に来園し相談や苦情などに対応している。

実施状況

・苦情解決委員連絡会 平成21年10月27日

* 利用者の家族からの苦情・要望に対して適切かつ速やかに対応し、課題解決を図るとともに、職員会議等で周知し、苦情等の内容を共通認識した上で、今後の支援の取り組みに生かすよう運営会議、職員会議で検討し委員会に指示し、制度の活用を図った。

・オンブズマン来園 毎月1回。相談結果は報告に基づいて人権会議及び当該フロアで検討し対応した。対応結果はオンブズマンに報告した。

・オンブズマン来園日にはAネット協力員、上席者が対応し始めて2年目となり対応が速やかにはかられてきた。

・オンブズマンと利用者、保護者とのより良好な関係改善に向け保護者研修会、学園行事(ふれあいフェスティバル、学園祭、成人式)への参加を計画した。

<七沢第一・第二更生ホーム、ライトホーム>

毎月、第3者委員3名による苦情解決の取り組みに向けた利用者への相談を実施している。平成20年度の下半期以降の内容としては、訓練に対する不満や、高次脳機能障害に起因する相談が苦情解決委員に寄せられている。

毎月第三者委員を招き利用者からの苦情や相談、悩み事などを受け付けている。利用者からは、苦情まではいかないが、利用者との対人関係など施設職員には相談しにくいことなどに利用されている。

<福祉全施設>

平成21年10月27日 苦情解決連絡会の開催

<神奈川リハ病院>

①4月から3月の苦情に対する対応状況件数は146件であった。

内容別

・苦情 52件

・要望 70件

・感謝 7件

・その他 17件

回答については郵送、掲示板掲示、利用者への直接回答などで対応した。

意見箱や来室された直後に関係部署へ連絡し、要望や苦情が速やかに解決できるよう取組んだ。

②他施設の資料を収集して研究を行っている。

苦情対応マニュアルに関しては、「苦情対応業務指針(案)」を作成した。

<七沢病院>

アドボカシー室に専従の職員を配置し、利用者の立場に立った迅速かつ適切な苦情解決に向け引き続き取り組んでいる。また、苦情等については、毎月取りまとめ、病院経営会議に公表し情報を共有することで利用しやすい施設運営に努めている。

【対応状況】

・平成21年度 苦情件数等98件
(内訳)

- ・苦情 49件
- ・相談 2件
- ・感謝 10件
- ・その他 37件

(2)利用者サービスの向上対策

ア 支援マニュアルの見直し(七沢療育園、七沢学園)

<七沢療育園>

看護科・支援課の業務マニュアルを主に、整理を行い、PCの療育園サーバーに、マニュアルフォルダーを作成している。

資料等はPDF化していつでも見られるように整理をしている。

<七沢学園>

- ・前年度七沢学園支援マニュアルを作成。内容は「人権」「成人部門」「児童部門」「地域福祉」「強行事業、医療重度」。3月にハンドブック版を作成。
- ・個別支援計画書の書式改訂を検討中。
- ・今後、不足している項目について新たに作成予定である

イ 発達障害児に対する支援プログラムの整備(七沢学園)

- ・児童年長の利用者の概ね半数が発達障害の診断や疑いのあるケースである。個別の障害特性を整理し発達段階に応じたプログラムの検討を継続する。心理評価、医療受診を実施する。
- ・地域生活への移行に向け施設での支援プログラムを家庭や地域で汎化できるよう家族、児相、学校等との連携を図った。(養護学校訪問部との連絡会は毎月1回実施)
- ・18歳を迎えた児童には児相から福祉事務所への移管(引き継ぎ)、学校の進路活動との連携を図っている。

ウ 在宅障害児の集中療育の支援プログラムの見直し(七沢学園)

<集中療育枠>

- ・H18年度の集中療育枠は3名だったが、H19年度～20年度は3～4名枠で推移した。H21年度は4～5名枠で運営している。

<受け入れ数>

- ・H18年度は集中療育を10名受け入れた。H19年度は12名、H20年度は23名と利用者は増加している。H21年度は20名の利用児を受け入れた。

<待機者>

- ・H21年度当初で20数名の待機者があり、21年度末でも20名の待機児童を抱えている。

<支援プログラム>

- ・利用目的には、生活リズムの立てなおし、排泄訓練、体重コントロール、身辺処理の自立、コミュニケーションの拡大といった直接的なケアのもの、母子分離、集団適応能力観察、心理評価、行動観察・評価など間接的なケアのもの、レスパイト、一時的な養護性、長期施設待機などの付帯的目的のものや、養育環境の整備、不登校の改善、行動改善といった、地域関係機関を巻き込んで、精力的に関わる必要のあるものまで様々である。

<七沢第一・第二更生ホーム>

社会生活力向上(グループ訓練)

疾患別、目的別にグループワーク等を利用して多種多様な支援プログラムを提供した。

1. 高次脳機能障害A「朝の組み立てと夕の振り返り」
1日の活動(訓練、生活など)を発表して組み立て、夕に想起する。メモリーノートなどを活用した。
2. 高次脳機能障害B「活動性を高める」
レクリエーションなどを利用して、低下している活動性を高めることができた。
3. 高次脳機能障害C「社会生活力を高める」
社会生活、社会参加に必要なスキルを学び、施設見学、セミナーなどを通して高めることができた。
4. コミュニケーショングループ
失語症、高温障害等のコミュニケーションに障害を持つ者を対象に言語科と連携を持ってグループワークを中心に行った。よりよい言語環境作りと訓練を提供できた。また地域の言語支援グループを見学することもできた。
5. SCI(頸椎損傷)プログラム
情報提供、施設見学、外出訓練などを通して、頸椎損傷者が社会参加に必要なことを提供することができた。

6. 就労・復職グループ

就労・復職活動に必要な情報提供、スキルなどをグループの形で提供した。

7. PC訓練

PC操作の基礎訓練と個別ニーズに対応したPC作業を行いPC操作の習得へ支援することができた。

8. 地域移行・自立促進のプログラム

地域移行に必要な情報提供、退所した利用者宅の見学などを行い、地域生活での自立を促進することができた。

セミナー、講座など

就労自立セミナーの開催

H21.10.7(水) ヘルパーによるセミナー 「ガイドヘルパーってどんな仕事」

H21.10.8(木) 自律・就職セミナー 「障害を抱えた私の就職活動」

・SCIセミナー H21.10.29(木) 「健康管理について」

・H21.11.4 「仕事サポータ」について

県商工労働部の仕事サポーターの状況について

・H21.11.4(木) 「私の健康管理 食生活を考えよう」

・H21.11.4(木) 「介助犬について」

・H21.12.8(水) 「更生ホーム退所者の自宅訪問」見学

・H21.12.10(木) 「会社見学」特例子会社 リクルートスタッフニング

・H22.1.6 地域移行プログラムと就労グループでのミニセミナー 「職能校についての体験」をテーマに就労活動の参考にした。

・H22.1.22 自立促進、地域移行プログラムセミナー 「地域で使える相談機関」をテーマに、あつぎ障害者自立生活支援センターより講師を招き、セミナーを開催した。

・H22.1.29言語訓練士による失語症家族講座(コミュニケーショングループ)「見てわかる失語症パートナー入門」をテーマにグループ訓練の様子や地域でのグループ訓練の重要性などの認識を得た。

<七沢ライトホーム>

・10月26日(月)盲導犬体験講座:盲導犬の役割、ユーザーの訓練内容や期間などについて説明を受ける。

当日は雨のため3階の食道と廊下を使って個別にハーネスを持って盲導犬と一緒に歩く体験を行なった。

・H22.1.29 講師を招き「視覚障害と社会生活」というテーマで講演会を実施した。視覚障害者が社会生活をする上での心構えや自身の体験を伝えることができた。

・2月26日神奈川県ライトセンター見学:指定管理で日本赤十字社が運営しており視覚障害者への情報提供、ボランティア育成、指導訓練などの事業を行なっている施設である。特に点字図書館の利用に関する情報など利用者にとっては有意義な一日であった。

・3月3日 話し方講演会:萩生田千津子さんは、車イス女優で、自分の障害を話し、迫力ある民話の語りを行なうなど聞き手に感銘・感動を与える講演であった。

オ 中期入所サービスへの取組み(七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム、七沢ライトホーム)

○ 入所申請から審査会の段階で目的を明確にしていく。

病院部門:入所期間6ヶ月以内の利用者の支援をすでにおこなっている。内容は地域移行として、在宅生活の

向上のための機能訓練と地域関係機関との調整、就労支援、補そう具の作成、家庭調整、レスパイトなど多岐

カ 高次脳機能障害への取組み(七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム)

(ア)日中訓練での取組み

①高次脳機能障害A「朝の組み立てと夕の振り返り」

1日の活動(訓練、生活など)を発表して組み立て、夕に想起する。メモリーノートなどを活用した。

②高次脳機能障害B「活動性を高める」

レクリエーションなどを利用して、低下している活動性を高めることができた。

③高次脳機能障害C「社会生活力を高める」

社会生活、社会参加に必要なスキルを学び、施設見学、セミナーなどを通して高めることができた。

(イ)高次脳家族懇談会の実施

第39回H21.10.9:生活支援員より所内訓練全般の説明と、高次脳関係の訓練について説明 参加家族5名

第40回H21.12.18:相談科より「高次脳障害関係の制度など」について 参加家族4名

(ウ)高次脳機能障害者へのグループ訓練の実施

A:日課の組み立て、振り返り(毎日朝、夕)参加者:7~10名

B:活動性を高める(週2回)参加者:3~5名

C:社会性活力を高める(週1~2回)参加者:3~5名

(エ)高次脳機能障害の更生ホーム利用者が七沢学園の訓練プログラムを利用

退所後の社会資源として、知的障害者を主な対象としている作業所(就労継続支援)を利用する予定のため、『作業に慣れる』『人に慣れる』という意味で効果があった。今後、知的を対象とした『作業評価』『対人評価』が、身障施設では難しいため学園での評価機能に期待したい。

・学園の日中活動を利用した更生利用者3名

・更生の日中訓練を利用した学園利用者1名

- キ 若年の脳血管障害者や頸髄損傷者への支援(七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム)
若年の頸椎損傷者へ、就労、進学、在宅生活、自動車免許の取得、自動車訓練など多様なニーズに対して、市町村・相談支援事業所・進学先(大学)・自動車学校などと連携を取り、ニーズにそったきめ細かな支援を展開している。
- ク 視覚障害者への訪問訓練の導入(七沢ライトホーム)
ライトホームの入所者、通所者、退所者を対象に、訪問訓練を試行的に実施し、来年度の本格実施に向けて検討した。
- 入所者への訪問訓練
入所者2名に対して、退所後の生活が予定されている自宅周辺の歩行訓練と居宅内整備のための日常生活動作訓練を訪問で実施した。
 - 通所者への訪問訓練
通所利用が確定した2名に対し、単独での通所が可能になることを目的として訪問訓練を行った。2名ともに単独での通所が可能となり、現在も訓練を継続している。
 - 退所者への訪問訓練
自宅転居及び最寄駅周辺の改装工事に伴って、歩行訓練を希望する退所者に、環境把握と安全な移動のための訓練を行った。自宅周辺、最寄駅、必要場所での単独移動が可能となった。
- ケ 視覚障害者への新たなスポーツ・レクリエーションへの取組み(七沢ライトホーム)
- ・スポーツ
 - ・「フライングディスク(FD)競技」の紹介、練習を開始し、次の大会に参加した。
11月 ライトホームFD記録会(12名)
 - ・サウンド・テーブル・テニス(STT)競技を紹介、練習を継続実施しており、次の大会に参加した。
10月 第24回藤沢市長杯(7名)
3月 第25回けやき大会(4名)
 - ・レクリエーション
日常生活動作訓練の一部として、「手編み」、「布ぞうり作り」、「折り紙」などを実施した。
 - ・訓練プログラムの一環としての木工教室で、視覚に障害があっても製作することができる紙バンドを使った「カゴクラフト作り」と「竹風鈴作り」を実施し、文化祭の作品として展示した。日ごろの訓練への意欲を喚起する行事としての役目も持っている。
 - ・ライトホームFD記録会で新たな種目としてFDゴルフを試行実施した。
 - ・感覚訓練の一環として、屋内やセンター周辺を誘導で歩くプログラムを実施している。
- コ 神奈川リハ病院との連携によるロービジョン(低視覚障害)者の受け入れ(七沢ライトホーム)
- ・外来・短期入院への支援
毎週火または水曜日に外来患者、短期入院がある場合には必要に応じて支援している。
個別の患者への実際のリハに関する情報提供、訓練等実施を実施している。
ORT(視能訓練士)に対して視覚障害リハに関する研修を行っている。
現在利用中の3名(入所1名、通所2名)がLVクリニックを経由してきた方である。
 - ・医療関係者への情報提供
KLVN(神奈川ロービジョンネットワーク)事務局支援を通して、医療関係者にロービジョンサービスを行っていること等を周知した。またLV患者を紹介してくれる医療関係者へ当施設で行っているリハビリ・相談内容に関して具体的な情報を提供した。
- サ 障害者歯科診療の実施(神奈川リハ病院)
- ・今年度の診療実績(21年度)は、延べ1,756件である。
- シ 禁煙外来の設置(神奈川リハ病院)
- ス 病院のリハ情報システムと福祉施設の利用者情報システムとの連携
(神奈川リハ病院、七沢第一更生ホーム、七沢第二更生ホーム)
- セ 土曜日リハビリテーション訓練の実施(七沢病院)
- ・入院患者の早期離床、ADL向上を推進するため、理学療法、作業療法、言語療法の土曜日リハ訓練を引き続き実施するとともに、呼吸訓練を必要とする患者に対して土曜日、日曜日にも訓練を実施した。
- ①理学療法科
訓練実施日:毎月第2・4土曜日
平成21年度実績 8,638単位(平成20年度実績 8,505単位)
 - ②作業療法科
平成21年度実績 279単位(平成20年度実績 275単位)

③言語科

平成21年度実績 287単位(平成20年度実績 303単位)

- ・訓練が休日に行われることで、家族が訓練の状況を把握することができると好評である。
- ソ 病棟内リハビリテーション訓練の実施(七沢病院)
- ・早期離床、ADL向上を推進するため、リハスタッフと看護職員が連携し病棟内訓練を引き続き実施した。

①理学療法士

早期離床、ADLの向上のために、病棟でベットサイドでの呼吸訓練、起居動作訓練、移乗動作訓練、歩行訓練等。

②作業療法士

ベッドサイドでの起居動作訓練、更衣動作訓練、トイレ等での排泄動作訓練、食事動作訓練等。

③言語指導士

摂食・嚥下障害患者に対して、実際の食事場面での摂食・嚥下機能の評価・訓練。

タ 作業療法訓練(パソコン訓練)の充実(七沢病院)

- ・作業療法科の訓練の充実を図るために、インターネットに接続したパソコンを2台設置。

チ レセプトのオンライン化の推進(2病院)

- ・4月より導入し運用した。

ツ オーダリングシステムの導入に向けた検討(2病院)

- ・2病院総務課情報担当者、総務課電算システム担当、企画財務課と導入に向け、検討を行なっている。

テ 電子カルテシステムの導入に向けた研究(2病院)

- ・他病院の導入実績について調査を行なった。
(倉敷中央病院、大阪府立急性期・総合医療センター)

(3)自己評価・第三者評価等の推進

ア 第三者評価の推進(5福祉施設、2病院)

<七沢療育園>

- ・近い将来、児童施設から療養介護施設移行の可能性が高く、移行に向けての課題整理が重要な要件となっている。このことから企画プロジェクトを立ち上げ、検討を図っていく体制をとっており、第三者評価受審は、療養介護施設移行後もしくは動向が定まってからが適当と判断した。

<七沢学園>

- ・6月2日に社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会福祉サービス第三者評価機関かながわより「グレードⅡ」の説明を受ける。児童は対象外で成人だけの単独受診は、対外的アピールの点でも効果が薄いこと。また、評価に整備中の内容や今後取組みによるものもあり、作り上げる課題があること。これらの点から今年度内の受診は延期とし、引き続き受診に必要な準備を進める。

<七沢第一・第二更生ホーム、七沢ライトホーム>

- ・平成21年度は、22年度の更生ライト施設統合が予定されている。
第三者評価は、利用者への公表という役割もあるため、施設統合後の平成22年度の実施を検討した。

<神奈川リハ病院>

- ・平成22年度を受審に向けて、職員2人が平成21年6月22日に(財)日本医療機能評価機構主催の病院機能改善支援セミナーに出席するなどして新たなバージョンに関する情報を収集し、研究を行った。

<七沢病院>

- ・23年度に認定期間が終了することから、財団法人日本医療機能評価機構開催の「病院機能改善支援セミナーの新評価項目(Ver. 6.0)解説」に出席するなど情報収集を行っている。

イ 自己評価や利用者満足度調査の推進(5福祉施設、2病院)

<七沢療育園>

- ・例年2回、自己評価を実施している。第1回目を8月に、第2回目を2月28日に実施した。

<七沢学園>

- ・自己評価の大項目については、規則に定められた共通項目で捉えることとするが、細目については、施設の特性を踏まえた評価内容として実施する。3月12日に実施した。
- ・利用者満足度調査については10月13日～16日に実施した。

<七沢第一・第二更生ホーム、ライトホーム>

- ・第一、第二更生ホームは平成22年3月25日に実施した。ライトホームは平成22年3月10日に実施した。

<神奈川リハ病院>

- ・外来患者に対し平成22年2月下旬に調査を実施した。

<七沢病院>

- ・利用者満足度調査 10月13日～10月27日実施
- ・利用者の満足度向上のためコンサート等のボランティア活動を推進している。
12月19日クリスマスコンサート、1月3日獅子舞・お囃子、3月6日春のコンサート
書道教室 月2回、囲碁将棋教室 月1回、音楽療法 月1回、院内移動図書 週1回、
厚木市移動図書 月2回

(4)安全対策の推進

ア 安全対策への取り組み

<七沢療育園>

- ・年度の運営計画に基づいて実施している。
警備室からアドバイスをもらい、利用者の避難訓練及び消火訓練は毎回実施している。
また、年に1回は業者を呼んで、放水訓練等を実施している。
- ・避難及び消火訓練の実施状況
10/8、11/12、12/11、1/21、2/25、3/18実施

<七沢学園>

- ・職員緊急連絡網を作成。防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火器訓練を実施。
総合防災訓練 10/8、
避難と通報訓練 11/5、12/3、1/7、2/4、3/4実施。
- <七沢第一・第二更生ホーム、ライトホーム>
 - ・毎月、更生ホーム及びライトホームで防災(避難)訓練を実施。訓練は毎回テーマを設定し実際の運用が円滑に行えるよう工夫している。
 - ・防災(避難)訓練実施状況
更生ホーム 総合訓練10/3、10/28、11/25、12/25、1/20、3/17
ライトホーム 総合訓練10/28、11/27、12/16、1/28、2/17、3/25

<神奈川リハ病院>

- ・医療安全対策のための取り組み状況

<七沢病院>

- ・リスクマネジメント会議
毎月1回実施
- ・医療安全管理会議
毎月1回実施
- ・実施済み対策
A館正面玄関監視カメラ設置、老人ホーム下入り口扉設置、外周路車両走行注意喚起看板設置
危険箇所にチェーンを設置
外周路車両走行注意喚起看板設置
離院防止マニュアル見直しを実施
B館東側フェンス設置

3 効果的・効率的な運営

(1)採算性に配慮した運営

ア 利用計画の目標値の達成(5福祉施設、2病院)

<神奈川リハ病院>

- ・病院長を中心に、当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。
 - ①入院審査会(毎日開催)
 - ②DrTODrの紹介患者早期受入れ
 - ③入院患者確保対策(42病院に対して病院訪問を実施、入院案内・申込書・入院目安を67病院に郵送)

<七沢病院>

- ・第2・4火曜日開催の病院経営会議において、年度計画数(目標値)に対する利用率、収支等についての状況報告を行い、目標達成に向け取り組んだ。

イ 利用率向上への取り組み(5福祉施設、2病院)

<七沢療育園>

- ・児童相談所からの依頼で個人宅や作業所等の巡回訪問を業務とする地域支援班担当職員は、地域実情をしっかりと把握し、必要とあれば施設利用相談を丁寧に進め利用につなげている。
(療育訪問指導事業 平成21年度125回)
また、月2回の審査会では、地域支援の観点から、利用の可能性を主に審査し、積極的な利用を図っている。

<七沢学園>

- ・地域支援として緊急一時保護者のケアを入所によって養うフォローをしている。
- ・就労移行支援を希望される方に短期利用制度において入所支援、日中支援で受け入れ利用、進路の判断材料を提供している。

<七沢第一・第二更生ホーム>

- ・地域の回復期リハ病棟を持ち、過去に更生ホーム利用実績の無い病院を訪問し、利用者確保を図った。

<ライトホーム>

- ・厚木市民病院、神奈川リハ病院、ライトホーム合同での生活訓練体験会
厚木市立病院の眼科医2名と耳鼻科医1名の協力出席を得て、神奈川リハ病院眼科医1名とライトホーム職員5名が出席して外来通院患者及び家族を対象に行った。厚木市在住のロービジョンの方4名が参加した。
- ・横浜市及び川崎市の福祉事務所を訪問してライトホーム入所に向けた働きかけを行っている。

<神奈川リハ病院>

- ・入院審査会を毎日開催し病棟の入退院・急患受入可能病棟・待機患者状況を把握して利用率向上に努めた。入院患者数が258人を超えた場合には、さらに病棟医長、病棟科長を召集しベットコントロール会議を開催して、効果的なベット管理を行う体制にした。

なお、21年度ベットコントロール会議を4回開催した。

<七沢病院>

- ・入院審査会の毎日開催
院長を中心とした医師、看護師等による入院審査会(入退院コーディネーター会議)を毎日(水曜日除く)開催し、緊密な連携を図り、病棟毎の入退院の状況や待機患者の情報を共有し、効率的なベッドコントロールにより利用率の向上に努めた。
- ・DrTODrによる患者の早期受入れ
入院コーディネーター医師と紹介医師とのホットラインによる速やかな受け入れや、空きベッドの有効利用、待機患者の早期入院により、利用率の維持向上に努めた。

ウ 医師・看護師の確保への取組み(2病院)

<神奈川リハ病院>

- ・正規職員として、泌尿器科医師2人、内科医師1人、整形外科医師1人を採用した。
- ・その他、医師紹介業者を活用して小児科非常勤医師1人を採用した。
- ・精神科医師の確保については、北里大学と調整を行った。

<七沢病院>

- ・病院長が医師を派遣している大学(医局)へ派遣依頼の訪問を実施した。
- ・泌尿器科医師採用ができた。

エ 効果的・効率的な職員配置(全所属)

<七沢学園>

- ・10月以降業務及び支援内容の実態調査を行った。
- ・2階フロアの日中支援員、入所支援員の配置見直しを図った。
- ・科目別班支援プログラムの作成中。
発達訓練、感覚訓練、精神機能訓練、体育グループのプログラム検討。心理、OT、PT、体育等がリハとの連携を図った。

<七沢第一・第二更生ホーム>

- ・看護職員欠員に伴い夜勤専門非常勤職員の雇用
- ・生活支援員3名、事務職員2名、ケースワーカー1名の臨時職員雇用

<七沢病院>

- ・22年度に向け職員課と調整し、定年退職者を診療報酬対象の職種に振替し収入の増を図った。
理学療法助手→作業療法士

オ 予算・執行事務の適正管理(全所属)

<七沢第一・第二更生ホーム、七沢ライトホーム>

- ・年度当初に、当初予算及び前年度決算の状況を福祉施設経営会議や職員会議で説明し、指定管理者制度における経営破たんのリスクを伝え、利用料金収入に見合った費用執行の重要性を伝えた。
- ・毎月、施設の利用状況及び収入分析について事業団経営会議や福祉施設経営会議で報告し、施設収入に見合った費用の執行を行い、適切な施設経営に努めた。

<七沢病院>

- ・予算・決算事務を引き続き行うとともに、予算執行状況や中間決算状況を事業団経営会議や病院経営会議に報告した。また、常に問題意識を持ち主体的な病院運営に努めた。
- ・四半期毎の決算見込みと原価計算書の作成。
- ・毎月経営状況の分析を行うとともに、病院経営会議及び事業団経営会議へ報告し、適正な事業管理に努め、効果的・効率的な予算執行を行った。

カ 広報活動の推進(全所属)

<センター全体>

・現在のホームページは、平成17年度のリニューアルから4年が経過しているため、①患者、利用者の増加を図る、②職員等の募集に効果を上げる、③情報提供(専門性をアピール)などを目的とし、新たな運用に係るコンセプトに基づいたトップページ等の改修作業を進め、新ホームページを22年4月から公開とする。

<七沢学園>

・園内の担当者により、行事が行われる都度、利用者の状況や学園の生活の様子をホームページに掲載し、紹介している。

<七沢第一・第二更生ホーム、七沢ライトホーム>

・施設内でパソコン委員会を開催し、七沢更生ホーム、七沢ライトホームのホームページ検討会議を開催。11月26日、12月9日、12月11日、12月22日

<神奈川リハ病院>

平成21年4月に携帯電話向けサイトを立ち上げた。神奈川リハ病院携帯サイトのアクセス件数は、4～3月で3,506件であった。

また、ホームページの充実に向けては、①代表疾患、②診療科、③リハ局、④診療支援部門の4つに区分して、年間計画に沿って四半期単位で見直しを進めている。

<七沢病院>

平成21年4月に携帯電話向けサイトを立ち上げた。七沢病院携帯サイトのアクセス件数は、4～12月で31,417件であった。

七沢病院ホームページについては、新たにリハビリテーション局紹介、医療福祉総合相談室を12月にアップした。

(2)収益の確保対策と経費の節減対策

ア 収益の確保対策(5福祉施設、2病院)

<七沢学園>

・就労移行支援事業見学会の実施

主として、養護学校高等部の生徒と保護者を中心に、就労移行支援事業の紹介と体験の場を提供し、就労移行支援事業の利用者確保を図った。

<七沢第一・第二更生ホーム>

第一更生ホームは、本年度をもって事業終了となり、入所利用者が減少するが、退所後の通所利用の拡大を図りH21年11月に累計利用者延432人で前年同月累計101人に対し、331人の増となった。

第二更生ホームは、入所利用者の減に伴う空床を活用し積極的に短期等利用者を受け入れ、H21年11月に累計利用者延323人で前年同月累計229人に対し94人増となった。

<神奈川リハ病院>

・病床の有効利用による増収確保

入院審査会を毎日開催し、各病棟の入退院・急患受入可能・待機状況を把握して利用率向上に努め、安定的な収入確保に努めた。緊急入院受入患者は21年度で257人で、入院全体に占める比率は18.8%である。

・入院期間の短縮化の推進

・請求もれ、査定減対策等の推進

査定減通知書に基づき査定減の原因をレセプトと照らし合わせ、再審査し、医療局にフィードバックして再審査をした。

査定減率を20年度1.04%に比べて、21年度実績(4-1月)は入院0.76%、外来0.95%と低下させた。

<七沢病院>

・病床の有効利用による増収確保

入退院コーディネーターによる調整を毎日行うとともに、リハ情報システムによる入退院状況や病床稼働状況を活用し、利用率向上に努めた。

・入院期間の短縮化の推進

・請求もれ、査定減対策等の推進

「返戻・査定減対策のための勉強会の開催」(隔月開催)

医事業務委託職員と共同で、事例を元に検証し、返戻再請求を行い、収入確保に努めた。

第3回:平成21年10月22日

第4回:平成21年12月15日

第5回:平成22年2月15日

- ・未収金発生防止への取組み
(患者さんへの情報提供や支払い相談の実施)
- ・入院患者やその家族等から診療費の支払い相談があった場合は、ソーシャルワーカー、医事課担当者が高額療養費制度(限度額適用認定証)等の紹介や分割での支払い方法について随時相談に応じ、未収金の発生防止に努めている。
- ・未収金回収(早期回収のための催告事務の実施)
年金支給月の催告状発行や土曜日、平日の在宅時間の電話連絡により早期回収に向け催告を実施している。
 - ①催告状等の発送:5月、7月、9月、11月、1月 75件
 - ②電話連絡:毎月の支払遅延者等への連絡及び偶数月は特に集中的に連絡し、支払い期日及び支払方法等について再確認を行っている。
- ・個人未集金の回収業務委託に向けた取組み
未集金回収を着実に推進するため、22年度予算要求を行った。
- ・診療報酬改定への対応
22年度診療報酬改定に向けて、下記のとおり情報収集に努めた。なお、七沢病院における改定影響額については、疾患別リハビリテーション料、回復期及び亜急性期入院料の改定増や加算の新設により増収となる見込みである。
 - ①平成22年2月9日 自治体病院職員診療報酬改定研修会
 - ②平成22年3月10日 全国公私病院連盟診療報酬改定説明会
 - ③平成22年3月18日 神奈川県病院協会診療報酬改定説明会
 - ④平成22年3月23日 関東信越厚生局診療報酬改定集団指導
 - ⑤平成22年3月24日 ニチイ学館診療報酬改定研修会
 また、21年度診療報酬適正化会議において、改定概要等の説明を行い、院内の情報共有化を図った。
(平成22年3月18日)
- <神奈川リハ病院、七沢病院>
- ・平成21年4月、定期異動において正規職員を配置する等し、次の講習会に派遣して専門知識の向上を図っている。
 - 10月16日 医事業務研修会
 - 10月22日 労災保険算定研修会
 - 3月10日 平成22年4月診療報酬改定説明会(全国公私病院連盟)
 - 3月18日 平成22年4月診療報酬改定説明会(神奈川県病院協会)
- イ 経費の節減対策(全所属)
- <七沢第一・第二更生ホーム、七沢ライトホーム>
- ・療養食加算の請求に伴い、食事カードの変更が必要となり、従前からの3枚複写のカーボン印刷を廃止し、パソコンでの印刷をすることで経費削減を図った。業者印刷1部21円に対し、▲19.23円の節減。
(パソコン0.59円×3枚=1.77円)
- ・コピー機使用料削減に伴う印刷方法の啓蒙
- <神奈川リハ病院>
- ・医薬品、診療材料等の廉価購入の促進
薬事委員会議や診療材料適正化会議で廉価購入の促進を図った。
薬品:病院事業庁での県立病院全体で使用する薬品を入札に参加し対応した。
診療材料:2病院で使用品目を統一して契約し対応した。(実施時期 平成21年4月)

- ・後発医薬品の購入の推進
21年度の後発医薬品購入実績は、品目数で全薬品の10.0%程度、購入金額で8.0%となった。
- ・医薬品、診療材料等の在庫管理の徹底
薬事委員会議、診療材料適正化会議、OP・ICU会議で適正在庫管理に努めた。
- ・効果的な執行と経費節減に向け、値引き交渉を行い、購入単価などの圧縮と適性在庫維持に努めた。
<七沢病院>
- ・医薬品、診療材料等の廉価購入の促進
薬品:病院事業庁での県立病院全体で使用する薬品を入札に参加し対応した。
- ・後発医薬品の購入の推進
薬品費の執行削減、患者負担の軽減等のため、採用薬品の見直しを行うとともに、病棟内のデッドストック解消のための払い出し量、在庫の確認を毎週実施して、不足品の追加や余剰品を回収し、最小単位の購入を行った。
- ・医薬品、診療材料等の在庫管理の徹底
薬事会議、薬品・診療材料適正管理会議の中で、安価でより有効な品目への採用へ見直しを実施した。
また、必要最小限の在庫を常時徹底し、適正在庫の実現に努めている。
- ・医療機器の保守点検等について、計画的な対応や消耗品の購入品目が多岐に渡らぬよう、各所属共通品目で対応するよう努めるとともに、入札については、スケールメリットを得るため、福祉施設と合同で行っている。
- ・患者給食については、契約満了の3年目となったことから、22年度にむけて新たにプロポーザル方式により業者を選定した。

3 収支状況 (単位:千円)

	収入額			支出額	収支差額	
	指定管理料	利用料金 (前年同月料金 額)	その他収入			
年間予算額	11,643,625	5,278,558	6,328,782	36,285	11,643,625	0
上半期計 (a)	5,621,496	2,394,186	3,211,590 (3,352,606)	15,720	5,409,936	211,560
下半期 (b)	6,054,566	2,884,372	3,143,006 (3,090,618)	27,188	6,038,147	16,419
10月	809,565	258,993	546,039 (556,872)	4,533	1,057,906	△ 248,341
11月	778,452	302,186	473,288 (491,485)	2,978	713,496	64,956
12月	1,696,721	1,164,307	529,670 (498,202)	2,744	1,457,374	239,347
1月	868,244	333,725	532,480 (489,119)	2,039	856,692	11,552
2月	767,763	358,199	406,542 (507,942)	3,022	711,920	55,843
3月	1,133,821	466,962	654,987 (546,998)	11,872	1,240,759	△ 106,938
合計 (a+b)	11,676,062	5,278,558	6,354,596	42,908	11,448,083	227,979

- 1 指定管理者の収入を記載する(県の収入である「使用料」は含まない)。
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見書

- ・半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

収入状況

利用料金収入は、年間予算額(6,328,782千円)に対し6,354,596千円で100.41%の達成率となっている。その他収入は、年間予算額(36,285千円)に対し42,908千円で118.25%達成率となっている。

利用料金収入のうち福祉施設の利用実績は全体で減となっているが、21年4月の支援費報酬改定増及び激変緩和加算等により収入計画達成率は104.36%となっている。また、2病院の利用実績はともに減となっており、一日平均入院率は両病院で82.65%となっているが、実績単価の増等により収入計画達成率は99.67%となっている。

その他収入は、研修受講料や実習謝礼の増による雑収入の増等により、6,623千円の増となっている。

支出状況

支出は年間予算額(11,643,625千円)に対し、11,448,083千円で98.32%の執行率であった。

人件費は、予算7,190,063千円(給料・手当等)に対し、7,127,699千円で99.13%の執行率であり、医師及び看護師の確保困難等に伴う雇用減等である。

物件費は、予算3,936,941千円に対し、3,803,764千円で96.62%の執行率であり、事業計画減に伴う直接処遇費(薬品費・診療材料費・給食材料費・寝具借上料等)の減によるものである。

(今期に行った資本的な収支及び支出の状況)

	内容	金額(千円)
収入の状況	なし	
支出の状況	なし	
積立等の状況	総合リハ事業積立預金(将来の損失への備え等)1,277,926千円、退職給与積立預金1,240,130千円 合計2,518,056千円	期首 2,518,056
	【固定負債 退職給与引当金6,609,874千円(積立不足額 ▲5,369,744千円(6,609,874千円-1,240,130千円))】	期末 2,518,056

- 収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。
 支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。
 積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容(施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等)、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

(1) 七沢療育園(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	6,873 人	7,115 人	△ 3.4%
下半期計(b)	6,753 人	6,996 人	△ 3.5%
10月	1,128 人	1,186 人	△ 4.9%
11月	1,119 人	1,201 人	△ 6.8%
12月	1,123 人	1,175 人	△ 4.4%
1月	1,120 人	1,168 人	△ 4.1%
2月	1,055 人	1,092 人	△ 3.4%
3月	1,208 人	1,174 人	2.9%

(2) 七沢療育園(地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	165 人	215 人	△ 23.3%
下半期計(b)	186 人	231 人	△ 19.5%
10月	43 人	65 人	△ 33.8%
11月	19 人	28 人	△ 32.1%
12月	36 人	39 人	△ 7.7%
1月	9 人	33 人	△ 72.7%
2月	35 人	26 人	34.6%
3月	44 人	40 人	10.0%

(3) 七沢学園(児童・入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	5,119 人	5,064 人	1.1%
下半期計(b)	5,136 人	5,107 人	0.6%
10月	863 人	868 人	△ 0.6%
11月	839 人	840 人	△ 0.1%
12月	864 人	853 人	1.3%
1月	890 人	846 人	5.2%
2月	792 人	809 人	△ 2.1%
3月	888 人	891 人	△ 0.3%

(4) 七沢学園(児童・地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	590 人	689 人	△ 14.4%
下半期計(b)	572 人	447 人	28.0%
10月	105 人	63 人	66.7%
11月	95 人	91 人	4.4%
12月	107 人	81 人	32.1%
1月	59 人	80 人	△ 26.3%
2月	98 人	41 人	139.0%
3月	108 人	91 人	18.7%

(5) 七沢学園(成人・入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	12,397 人	13,228 人	△ 6.3%
下半期計(b)	11,903 人	12,887 人	△ 7.6%
10月	2,037 人	2,243 人	△ 9.2%
11月	2,026 人	2,183 人	△ 7.2%
12月	1,997 人	2,233 人	△ 10.6%
1月	1,980 人	2,215 人	△ 10.6%
2月	1,811 人	1,954 人	△ 7.3%
3月	2,052 人	2,059 人	△ 0.3%

(6) 七沢学園(成人・地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	232 人	203 人	14.3%
下半期計(b)	201 人	227 人	△ 11.5%
10月	20 人	10 人	100.0%
11月	10 人	26 人	△ 61.5%
12月	37 人	24 人	54.2%
1月	34 人	22 人	54.5%
2月	40 人	66 人	△ 39.4%
3月	60 人	79 人	△ 24.1%

(7) 七沢第一更生ホーム(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	1,597 人	1,908 人	△ 16.3%
下半期計(b)	1,078 人	2,222 人	△ 51.5%
10月	186 人	294 人	△ 36.7%
11月	180 人	407 人	△ 55.8%
12月	186 人	426 人	△ 56.3%
1月	186 人	378 人	△ 50.8%
2月	168 人	345 人	△ 51.3%
3月	172 人	372 人	△ 53.8%

(8) 七沢第一更生ホーム(地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	323 人	56 人	476.8%
下半期計(b)	291 人	160 人	81.9%
10月	53 人	26 人	103.8%
11月	56 人	19 人	194.7%
12月	51 人	19 人	168.4%
1月	49 人	28 人	75.0%
2月	43 人	33 人	30.3%
3月	39 人	35 人	11.4%

(9) 七沢第二更生ホーム(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	11,488 人	13,610 人	△ 15.6%
下半期計(b)	11,094 人	13,469 人	△ 17.6%
10月	1,888 人	2,437 人	△ 22.5%
11月	1,852 人	2,280 人	△ 18.8%
12月	1,916 人	2,358 人	△ 18.7%
1月	1,871 人	2,233 人	△ 16.2%
2月	1,739 人	1,957 人	△ 11.1%
3月	1,828 人	2,204 人	△ 17.1%

(10) 七沢第二更生ホーム(地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	247 人	156 人	58.3%
下半期計(b)	418 人	216 人	93.5%
10月	19 人	44 人	△ 56.8%
11月	57 人	29 人	96.6%
12月	47 人	25 人	88.0%
1月	73 人	37 人	97.3%
2月	104 人	50 人	108.0%
3月	118 人	31 人	280.6%

(11) 七沢ライトホーム(入所)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	2,617 人	2,141 人	22.2%
下半期計(b)	2,129 人	2,828 人	△ 24.7%
10月	360 人	501 人	△ 28.1%
11月	379 人	455 人	△ 16.7%
12月	363 人	519 人	△ 30.1%
1月	363 人	480 人	△ 24.4%
2月	326 人	420 人	△ 22.4%
3月	338 人	453 人	△ 25.4%

(12) 七沢ライトホーム(地域支援)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	248 人	370 人	△ 33.0%
下半期計(b)	328 人	409 人	△ 19.8%
10月	65 人	100 人	△ 35.0%
11月	53 人	65 人	△ 18.5%
12月	48 人	69 人	△ 30.4%
1月	47 人	68 人	△ 30.9%
2月	51 人	47 人	8.5%
3月	64 人	60 人	6.7%

(13) 神奈川リハビリテーション病院(入院)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	45,042 人	46,416 人	△ 3.0%
下半期計(b)	42,747 人	41,308 人	3.5%
10月	7,214 人	7,025 人	2.7%
11月	7,615 人	6,577 人	15.8%
12月	7,149 人	6,729 人	6.2%
1月	6,848 人	6,523 人	5.0%
2月	6,408 人	6,883 人	△ 6.9%
3月	7,513 人	7,571 人	△ 0.8%

(14) 神奈川リハビリテーション病院(外来)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	42,668 人	43,391 人	△ 1.7%
下半期計(b)	43,449 人	42,901 人	1.3%
10月	8,028 人	7,961 人	0.8%
11月	7,138 人	6,989 人	2.1%
12月	7,226 人	7,126 人	1.4%
1月	6,876 人	6,728 人	2.2%
2月	6,566 人	6,583 人	△ 0.3%
3月	7,615 人	7,514 人	1.3%

(15) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター(入院)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	35,308 人	39,361 人	△ 10.3%
下半期計(b)	35,273 人	34,492 人	2.3%
10月	5,611 人	5,765 人	△ 2.7%
11月	5,504 人	5,511 人	△ 0.1%
12月	5,739 人	5,786 人	△ 0.8%
1月	5,903 人	5,909 人	△ 0.1%
2月	6,006 人	5,423 人	10.8%
3月	6,510 人	6,098 人	6.8%

(16) 七沢リハビリテーション病院脳血管センター(外来)

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計(a)	5,547 人	5,754 人	△ 3.6%
下半期計(b)	5,992 人	5,790 人	3.5%
10月	1,194 人	1,017 人	17.4%
11月	1,181 人	1,055 人	11.9%
12月	959 人	970 人	△ 1.1%
1月	853 人	865 人	△ 1.4%
2月	833 人	887 人	△ 6.1%
3月	972 人	996 人	△ 2.4%

利用状況に関する意見等

〔 半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。 〕

〔 七沢第一・第二更生ホームは、来年度の県の障害福祉計画に基づく50名の入所者の地域移行に向けて、入所調整を行なった結果、入所率が下がっている。
また、七沢病院は看護師の充足状況から昨年度1月から稼働病床数の抑制(許可病床数245床のところを稼働病床数195床としていた)を行い、入院利用率が下がっていたが、10月からは稼働病床数を220床とし、利用率は上がっている。 〕

5 苦情・要望等の状況

(施設受付分)

(施設所管課受付分)

(1)七沢療育園

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	1	0	0	0	0	1
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

(2)七沢学園(児童)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

(3)七沢学園(成人)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

(4)七沢第一更生ホーム

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

(5)七沢第二更生ホーム

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

(6)七沢ライトホーム

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

(7)神奈川リハビリテーション病院

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	4	2	5	0	0	11
11月	2	0	3	0	0	5
12月	7	0	3	0	0	10
1月	4	0	9	0	0	13
2月	4	0	6	0	0	10
3月	11		10	2	0	23

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

(8)七沢リハビリテーション病院脳血管センター

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	1	0	5	0	0	6
11月	4	1	2	0	0	7
12月	3	1	4	0	0	8
1月	1	7	0	0	0	8
2月	6	0	3	0	0	9
3月	3	0	7	0	0	10

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

6 特筆すべき苦情・要望及び対応状況

（類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。）

分野	概要	対応状況
施設・設備	・女子トイレにコートをかける場所がほしい	病院全体を調査し、男女トイレともに、フックの外れたところは付け替え、ついていないところは新たに取付けた。
	・男子トイレの自動水栓の故障が修理されない。	早急に修理を行い、修理を完了した旨、また不便をかけたことに対して謝罪し、今後は早急に対応することを述べ、ご理解いただいた。
職員対応	・看護師の説明が、幼児に対するような話し方である。	看護局長、病棟科長、外来科長より本人に注意・指導。利用者に説明し、納得していただく。
	・面談時の声が大きいため、面談室から廊下に筒抜けであった。配慮がほしい。	状況を考慮して対応することを説明し、納得いただいた。
その他	・看護師の対応に感謝。	看護局長、病棟科長、外来科長より本人に伝える。今後の励みになることを、利用者に伝える。
	・医師の対応に感謝。	院長、医療局長より本人に伝える。今後の励みになることを、利用者に伝える。
	・ケースワーカーの対応に感謝。	医療福祉支援室長より本人に伝える。今後の励みになることを、利用者に伝える。
	・理学療法士の説明が、数値や訓練効果などはっきりと示され、分かり易く、頑張る気持ちがわく。	院長、PT科長より本人に伝える。今後の励みになることを、利用者に伝える。

7 事故や不祥事等の発生状況

（利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、行政システム改革推進課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。）

発生日	概要・対応状況等
月 日	なし

8 随時モニタリングの実施状況

（事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。）

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日	なし		
月 日			

9 上(下)半期の所見等

（1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。）

指定
管理者

福祉施設の利用率については、身障施設については、県の障害福祉計画に基づく22年度からの地域移行が50名であることから入所調整を行なった結果、入所率が下がっている。来年度からは、50名の地域移行の実施を行うが、利用率の向上という相反した事項をいかに克服していくかが課題である。

病院については、神奈川リハ病院はほぼ利用率を達成している。七沢病院も看護師の充足状況から、21年1月より稼動病床数を245床から195床に減して運用しており厳しい状況にあったが、21年度下半期は看護師を確保し、稼動病床数を220床にまで上げることができた。なお、22年4月から本来の245床に戻している。今後も、職員課とともに看護師確保対策を引き続き最重要課題として取組み、利用率の向上を図る。

一方でセンター全体としては、新経営計画改訂計画に基づく事業団独自の事業運営に取組み、効果的・効率的な運営が図れた。

施設
所管課

（社福）神奈川県総合リハビリテーション事業団は、指定管理業務を効果的に実施するとともに、法人の効率的な運営に向け、新経営計画改訂計画（平成21年3月策定）に基づき、社会環境の変化や新たな課題に柔軟に対応した取組みを進めていることから、この計画が着実に推進されるよう、今後も指導を継続する。

リハセンターの効率的な運用や安定的な収入確保の面から最優先の課題として認識している看護師確保対策であるが、リハ事業団が課題解決に向け積極的に取組んだため、上半期は195床で運用していたが、21年10月から220床での運用、また22年4月から245床と満床での稼動となるなど改善されてきている。しかしながら看護師確保については全国の多くの病院が共通して抱える課題であることから、引き続き注視するとともに指導を継続する。